金光学園

やつなみ

2017.3

247号

卒業式

英語で活動する

探究開発部長　田中　誠
ＳＧＨ関連委員長　守分　俊浩
国際化教育推進委員長　山本　幸子

平成23年度からのＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）、平成26年度からのＳＧＨＡ（スーパーグローバルハイスクールアソシエイト）の取組の中で、それまで以上に大きな進展を見せた分野として、グローバル化の取組があげられる。平成24年度のＳＳＨ宿泊研修で九州大学へ訪問した際に、留学生との交流会を実施した。教員の不安をよそに、中学1年生の生徒も、英語で留学生との交流を楽しみ、事後の感想でも、「有意義であった」「もっと話しがしたい」等の感想が寄せられた。こういった実績を積み重ね、学校へ留学生を受け入れた際に、かつては、お客様として迎え入れる特別なプログラムを中心とした受入であったが、最近では、生徒との交流を中心とした受入へと変化をしてきた。おりしも、「教育改革」とりわけ「英語教育」の大きな変化が求められる中、「英語で活動する」先進的な取組となっている。

グローバル関係の取組の今年度1年間を振り返ってみると、新たに、オーストラリアRadford Collegeと姉妹校提携を結び、3月に初めての訪問を行うのが、最大のニュースであるが、学校においては、年間100名を超える外国人を受け入れ、異文化交流する機会をふんだんに得ている。受入では、

ＡＦＳ長期留学生（インドネシア）
韓国　春川女子高等学校
ライオンズクラブ留学生（トルコ・台湾・マレーシア）
中国江西省高校生訪問団受入れ（岡山県姉妹都市）
オーストラリア高校生
JENESYS2.0　中国高校生訪日団短期招聘事業
Konko Gakuen Summer English Village
金光学園エンパワーメントプログラム
探究活動成果発表会（3／11）

さらに、今年度は、「EUがあなたの学校にやってくる」で、ギリシャ大使の来校をいただいた。大使が来校するのは、全国8校のみで、地方においては、非常に貴重な機会である。

一方、学校企画の海外研修や修学旅行以外でも、校外の派遣事業等を利用して海外を体験するものも増えてきている。

JAPAN SOCIETY主催 Junior Fellows Leadership Programは全国で10名の枠であるが、2年続けて派遣が決まっている。その他、

福武教育振興財団　オーストラリア・ブレ体験留学
倉敷市姉妹都市カンザスシティ市（アメリカ）
訪問青少年生活体験団
浅口市青少年海外派遣事業（オーストラリア）
笠岡市中学生海外派遣事業（オーストラリア）
トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム
【高校生コース】（フィリピン）

などに参加している。

日常的には、国際交流クラブも発足3年目を迎え、取組が充実してきた。現在、61名の生徒が登録しており、English Cafeでは、留学生との交流や、海外体験の発表会などを行ってきた。

さらに、長期休暇には、夏休みに中学1・2年生を対象としたKonko Gakuen Summer English Village、冬休みには、中3～高2年生を対象としたエンパワーメントプログラムと、校内で外国人と英語で活動する取組を開始するなど、「英語活用」の場を増やすとともに、グローバルマインドの育成に取り組んでいる。

英語を話せるというだけでは、国際人ではない。様々な機会を通じて、「異文化」に触れ、「理解」「共存」「共栄」へつなげていくことが望まれている。

書道体験

京都アメリカ大学コンソーシアム学生16名来校

EUがあなたの学校にやってくる

2016JENESYS2.0中国高校生訪日団 来校

中学体育会参加

ご卒業おめでとうございます。

平松　晃弘

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆さん、おめでとうございます。

卒業生の皆さんは3年間あるいは6年間の学園生活の中で、様々なことを経験されたと思いますが、それらの一つ一つがこれから始まる新しい生活の中で、とても大きな糧となって必ず活かされることでしょう。しっかりと胸に刻み新たなスタートに向け突き進んでいただきたいと思います。

昨年の総会で、やつなみ保護者会会長にご承認いただき、あっという間に1年が経とうとしております。保護者の皆様には1年間ありがとうございました。特にほつま祭での献身的なご尽力には深く感謝申し上げます。

仕事との兼ね合いでタイトなスケジュールの中ではありますが、中学・高校のＰＴＡ関連行事にも参加し、何とか役目をこなしてきた1年間だったように思います。

先日、岡山で開催された幼小中高ＰＴＡ連合会研修大会に参加して参りましたが、プログラムの中に「いのちと夢のコンサート」と題した合唱作曲家、弓削田健介さんの講演ライブがありました。

透き通った甘い歌声と語り口で弓削田さんは、命の大切さ、人の繋がりの大切さを我々に思い返させてくださいました。

「あなたがくだらないと思って過ごしている今日は、昨日亡くなった人が何としても生きたかった1日」。

「何万人というあなたのご先祖様が、1人も欠けることなく続けた命があるから、今あなたがいる。何にもないところから生まれてきたんじゃない」。

「ご両親がつけてくれたあなたの名前には、『幸せになあれ』という決して消えない祈りが込められている」。

とてもシンプルで分かりやすい言葉であるだけに、改めて言われると心にしみ入ります。

そしてこの度、4月29日のやつなみ保護者会総会講演会のゲストとして、弓削田健介さんにご出演いただく運びとなりました。

保護者の皆様方、どうかお誘い合わせの上、ご来場いただき「命の洗濯」をする有意義な時間を過ごして頂きたいと思います。乞うご期待！

（やつなみ保護者会　会長）

目　次

巻頭言……1
第69回高校卒業式……2
道(17)……28
やつなみ保護者会のページ……30
会報……33
活躍する卒業生…服部　真人……34
メタセコイア……36
活躍おめでとう……38
中２学年集会……43
ＡＦＳ留学生紹介……46
生徒入賞作品……48
探究授業報告……54
ある日のホームルーム……56
生徒会活動……57
学園だより……66
教室の窓から……編集後記……68

第69回高校卒業式

式辞

校長　金光　道晴

ご来賓の皆様方には、ご多用の中を金光学園高等学校卒業式にご臨席いただき誠にありがとうございます。また平素から学園教育にご協力とお祈り添えいただいておりますことに、心から御礼を申し上げます。保護者の皆様には、本日は誠におめでとうございます。18年前に、ご両親の大きな感動の中で、元気な産声をあげたお子さんはこのように立派に成長されました。

初々しくあどけない新入生として入学してこられたのも、過ぎ去ってみればついこの前のような気がいたします。保護者の皆様には、こうしてお子様方が、無事学園生活を終えて、今日のよき日を迎えられたことを感無量の思いで、参列しておられることと存じます。お子様の入学以来、今日までいただきました学園教育へのご支援とご協力に対しまして、心からの御礼を申し上げますとともに、お祝いを申し上げます。

さて、213名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。今朝は学園生として最後の金光教本部広前への参拝をし、代表の磯﨑真理子さんが、これまでの御礼とこれからのお願いをお届けされ、教主金光様から「本日はおめでとうございます。ただいま代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものをたいせつに、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になるすべてに礼をいう心をもって進んで行かれますよう願ってやみません」とのお言葉をいただきました。

そして、先ほどは卒業証書をいただかれ、めでたく高等学校第69回卒業生になられたわけでありますが、私にとっては、皆さんは最も印象深い卒業生であり、今日の卒業式も大変感慨深い思いで、臨ませていただいているのであります。と申しますのも、実は私が校長に就任したのが、今から6年前で、中学から入学した皆さんの入学式に、校長として初めて臨んだからであります。あれから6年がたちました。そして、3年前高校から新たな仲間が入学し、新しい風を運んできてくれました。それから3年が過ぎました。本当に大きく逞しく成長した皆さんの姿に、共に歩んできた者の1人として、一緒に卒業するような気持ちにもなり、感無量なのであります。

皆さんは素晴しい生徒に育ちました。3年ないし6年という年月は長い人生の中ではわずかな時間かもしれませんが、それぞれこの学園生活の中で、多くのことを学ばれ、成長し、そして今後の人生への礎を築いてこられたことを確信しています。勉学はもとより、健康な体、大切な友、そしてなにより、人として大切な心を身につけることができたと思っています。

卒業式の概要

2月28日朝8時5分、卒業生213名は、金光教本部広前に学園生徒として最後の参拝をし、磯﨑真理子さんが代表で卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意をお届けした。

第1部の式は、ほつま体育館にて10時に開式。国歌斉唱の後、各クラス担任より卒業生が紹介され、金光道晴校長より代表の大月貴弘さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、佐藤乃武雄理事長より記念品として金光教教典抄「天地は語る」と前金光教教主のお筆になる「学園の合言葉」の色紙が代表の木村恵子さんに贈られた。さらに、金光教教務総長 西川良典氏の挨拶、来賓祝辞（小寺稔氏）、送辞（澤田夕珠姫さん）、答辞（江原徹さん）と続き、最後に「金光学園歌」を斉唱して第1部は閉会した。

第2部の祝宴は、会場を小体育館に移して行われた。ほつま同窓会副会長尾原淑子氏から同窓会入会の歓迎の言葉、そして卒業生保護者代表 吉岡浩子氏より記念品目録贈呈（高校棟高1・2年普通教室へプロジェクター設置他）。2代校長 佐藤金造先生のお歌に、金光威和雄先生作曲による「若き人よ」の斉唱の後、お祝いとして、音楽部コーラスが'On Your Side'を、音楽部吹奏楽団が卒業生の部員も交えて「キャンディーズコレクション」を演奏した。そして第19回高校生新聞社賞受賞の佐藤茜胡さん表彰の後、坂居知憲さんの先唱で食前訓を唱え会食を始めた。歓談の後、やつなみ保護者会会長 平松晃弘氏からお祝いの言葉を頂いた。そして学園生活の3年間ないし6年間を振り返る「あしあと」が久繁正人先生と滝澤有美先生の司会のもと、高3学年団を中心に上演された。写真とナレーションで入学式、キャンプ、修学旅行、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思い返した。終わりに、保護者代表の有木美子氏、卒業生代表の細川典子さん、学校代表の佐藤正俊副校長よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。

ところで先日の2月12日は、12月の末に90歳を前にお亡くなりになったノートルダム清心女子学園理事長の渡辺和子先生のお別れ会という学園葬があり、私も参列させて頂きました。県内外から３５００人もの方々がお参りされていました。

渡辺和子先生は、１９３６年の二・二六事件で、わずか9歳の時、目の前で、陸軍教育総監であったお父様が、青年将校に射殺されるという大変な出来事を目の当たりにされた方でもありますが、200万部を超えるベストセラーになった「置かれた場所で咲きなさい」という著書や講演の中で、常に人にとって最も大切な心、許す心、愛する心についてお話されてこられました。

また、学長、理事長として、そしてシスターとして、長い間大変なお働きをなさり、偉大な功績を残された方であります。その学園葬の中で、渡辺先生は大学を巣立っていく卒業生に、いつも「さようなら」ではなく、「行ってらっしゃい」ということばで、送り出されていたということが紹介されていました。「行ってらっしゃい」ですから、またいつでも母校を訪ねてきた時には「お帰りなさい」という気持ちで、迎えておられていたというのであります。

私自身も金光学園に奉職して以来、何十回も、卒業生を送り出してきましたが、「また母校を訪ねてください」とか「顔を見せてください」とは言ってきましたが、「行ってらっしゃい」と言ったことはありませんでした。しかし、皆さんにとって学園は母校であります。今日は皆さんを「行ってらっしゃい」という気持ちで送り出したいと思っているところであります。

ところで、つい1週間ほど前に、福山に住んでいるある卒業生と、初めてメールでのやり取りをする機会がありました。もう47歳になる男性の卒業生なのですが、私の方からある事で連絡する事があったのですが、その返信に、次のようなメールを送ってきてくれました。「ご連絡いただきとても嬉しいです。日々挑戦の毎日ですが、奮闘しています。今の年齢になって、初めて金光学園で教えて頂いたことの素晴らしさがわかってきました。教育は本当に重要ですよね」というものでした。

また、今年のお正月に神戸に住んでいる40歳の女性の卒業生からの年賀状に次のようなことが書いてありました。「子育

てをしながら、自分の生い立ちを振り返り、私が神様を素直に信じるこの気持ちは、金光学園で心の中に種を植えて頂いたのだと何度も思います。今も『にちにちがさら』の日めくりを大切に生活しています。毎日毎日大切なメッセージを頂いています」というものでした。皆さんも持っていると思いますが、その日めくりは入学の時にお渡ししたものであります。

お二人とも卒業して20年も30年もたつのに、金光学園で学んだ大切なことに改めて気づいたり、今なお大切にしてくれていたりするのであります。私にとってはとても嬉しいことでしたが、卒業生の皆さんにも、この金光学園という母校で学んだことをこれからの人生の中で、いつまでも大切にしていっていただきたいと思うのであります。

昨日、卒業生の皆さんが卒業にあたって詠んだ一人ひとりの短歌や、ほつま新聞に掲載された文章を、ゆっくり読ませていただきましたが、正に卒業生としての思い、つまり「母校の心」が一杯詰まっているものばかりでした。

私はこの「母校の心」という言葉が大好きです。何か特別の響きをもっているように思えてなりません。「母校の心」とはどんな心なのでしょうか。それは「人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに」という合言葉の精神そのものだとも言えるでしょうし、建学の精神や、金光教の教えに基づく学園精神こそが、母校の心であるとも説明できると思います。しかし、そのような説明だけでは全てを言い尽くすことができないような、さらに温かく、もっと深く、重く、大切なものが、その底に流れているような気がしてなりません。

「母校の心」は、学園の長い歴史や伝統の中で、在校生はもとより、卒業生、保護者、教職員など、全ての人たちの努力によって受け継がれ、育まれてきた心、合言葉をどこまでも大切にしようとする心、学園精神を大事にしようとする心、金光学園を愛する心だと思うのであります。

先ほど紹介をした卒業生のように、何年たっても「学園で学んだからこそ今の自分がある」と言えるような卒業生になっていただきたいと思うのであります。

どうぞ卒業生の皆さんも、この金光学園を母校として愛し続け、そんな「母校の心」をいつまでも大切していただきたいと願っています。そして「母校の心」を胸に力強く羽ばたいていってください。皆さんには入学以来、折にふれて何度も学園の合言葉を申してきましたが、今日は最後に贈る合言葉であります。

「人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに」元気で行ってらっしゃい。

送辞

在校生代表　澤田　夕珠姫

卒業生の皆様、本日はご卒業、誠におめでとうございます。早春の陽射しに、温かく包まれた今日のよき日を迎えられましたことを、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今この場に立ち、振り返ってみると、先輩方と過ごした数々の思い出が目の前に浮かんできます。

先輩方が入学された年に本校はスーパーグローバルハイスクールアソシエイト校に指定され、国際交流クラブが発足し、留学生との交流や国際イベントでのボランティア活動などを行い先輩方はその先駆けとなりました。大阪大学の第1回国際公共政策コンファレンスで発表を行われたり、ジャパン・ソサエティ・ジュニアーフェロー・リーダーシッププログラムなどの留学プログラムに参加されたりするなど、私たちの良いお手本となってくださいました。また、先輩方が自習室や図書室などで遅くまで勉強されている姿はとても印象に残っており、私たちに努力と諦めないことの大切さを教えてくださいました。

先輩方は行事にも本気で取り組まれました。ほつま祭では1年生の時に展示の部で1位から3位を、2年生の時には、演技の部で1位から3位を独占されました。工夫を凝らした展示や、独創的な演技は、見る人を惹きつける素晴らしいものでした。今年度の体育会は時折激しい雨が降る中での開催となりましたが、先輩方の団結力は天候の悪さをものともしませんでした。ひたむきに頑張る姿勢と、仲間を応援する強い絆に、私たちは圧倒されるばかりでした。

また、先輩方は部活動でも輝かしい結果を残されました。運動部では、陸上競技部が中国大会・全国大会への出場を果たし、野球部は秋の県大会で初優勝し中国大会に出場しました。ほかにもバレーボール部・卓球部が中国大会へ出場されました。また、ラグビー部でU-18合同中国選抜として長野県全国大会に出場された先輩、バレーボール部で岩手国民大会に出場された先輩もいらっしゃいました。

文化部では、音楽部コーラスが全国大会に出場を果たし、書道部が全国競書大会において全国競書大会委員長賞を、文芸部が高校生文芸道場中国ブロック大会で優秀賞を受賞しました。また、音楽部吹奏楽団は韓国訪問演奏を行い、最高の笑顔と全力のパフォーマンスを繰り広げ、会場を感動の渦に巻き込みました。

私たちは先輩方の活躍される姿をしっかりと胸に刻み、先輩方を目標にしてこれからも頑張っていこうと思います。

さて、社会に目を向けてみると、この1年の間には、さまざまなことがありました。

特に印象に残ったのは昨年行われたリオデジャネイロオリンピックです。リオ五輪では、オリンピック史上初めて難民五輪選手団が結成され、開会式で選手団がスタジアムに入場すると大きな歓声と拍手が会場から巻き起こりました。それは、選手団だけではなく、世界の約6千万人の難民へのメッセージのようでした。過酷な経験をした同じような人たちの中から、世界の祭典の舞台に立てる人が出るという事実は、多くの難民、特に子どもたちに希望を与えたに違いありません。様々な違いを乗り越え、世界はひとつになることができるということを象徴するオリンピックでした。

その一方で、イギリスがEU離脱を発表し、アメリカでは新大統領がTPP離脱や移民規制などグローバル化に背をむける政策を本格化させようとしています。反グローバルの波をせき止めるのは容易ではありませんが、格差をはじめグローバル化によって生まれた様々なひずみを解消するために雇用や教育、低所得者支援など各国が協調して抜本的な対策をとらなければ新たな危機や紛争を招きかねません。他者を受け入れる寛容さと、異なる宗教や人種、文化を互いに認め共存する多様性のある社会を築くことが重要です。その鍵となるのが、私達が金光学園でいつも心がけてきた合言葉「人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに」ではないでしょうか。今後も世界は大きく変わっていくと思いますが、この合言葉を実践していくことこそ、未来への一歩であると信じています。

先輩方は、今日を境に新しい世界に向かって大きな一歩を踏み出されます。時には困難なことにぶつかることもあるでしょう。そのような時にこそ、学園の合言葉や学園で生活をともにした仲間達との思い出を励みに、自分らしく夢に向かって歩み続けてください。私達は先輩方が残してくださった伝統を引き継ぎ、そしてそれを後輩達に伝えていきたいと思います。

最後になりましたが、先輩方の今後の更なるご活躍とご多幸を、在校生一同祈念して、送辞とさせていただきます。

答　辞

卒業生代表　江原　徹

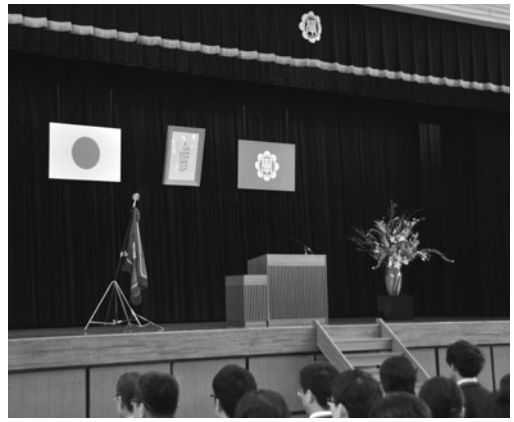
冬の寒さも和らぎ、少しずつ春の訪れが感じられる季節となりました。

本日は私たちのために、このように厳粛で盛大な卒業式を挙行していただき誠にありがとうございます。そして私たちの門出にあたり、ご来賓の皆様をはじめ、多くの方からお祝いや激励のお言葉をいただき卒業生一同、心より御礼申し上げます。

3年ないし6年前、真新しい制服に身を包み、学園生としての第一歩を踏み出した日がつい昨日のことのように思い出されます。以来、私たちは仲間と共に励まし合い、高め合いながら勉強や部活動、学校行事に取り組み、輝かしい最高の時間を過ごすことができました。金光学園で過ごした一日一日がかけがえのない大切な宝物となりました。

学園生活を振り返ってみると様々なことがありました。特に印象に残っているのは高校3年生の体育会です。当日は残念なことに雨が降り出し、ずぶ濡れになりながらの開会式となりました。しかし、そんな中でも真剣に競技へと取り組みました。泥で靴が汚れそうになれば裸足で走り、仲間がすべって転びそうになれば支え合う。一人ひとり工夫をし、助け合い、持っている力以上のものを発揮することができました。このように、行事を通して学年の団結が深まるとともに、「今」という時間を大切に過ごし、「今」しかないこの時を充実させていく大切さを実感することができました。

さて、世の中に目を向けると、歴史的な出来事がありました。公職選挙法の改正で選挙権が18歳以上に引き下げられたのです。これにより、日本の中での18歳の担う役割が大きく変わりました。世界ではおよそ9割の国で18歳以上の人に選挙権が与えられています。それを踏まえると、日本はやっと世界標準になり、ある意味、「グローバル化」に一歩踏み込んだと言えるのではないでしょうか。グローバルというと世界のことばかり考えがちですが、その根本は、日本を知り、理解することだと思います。というのも、日本の現状を理解した上で世界を見て初めて世界と日本の違いを感じることができ、課題を見つけることができるからです。



私たちは主権者の一人として、その課題を解決する方策を練り、世界と共存していける社会を作っていくべきだと思います。

昨年の5月に当時のアメリカ大統領であるオバマ氏が広島を訪問したことも、12月に安倍首相が真珠湾を訪問したことも、共存に向けた大きな一歩だと思います。オバマ氏は、日本政府との外交目的だけで広島を訪問したのではありません。広島の人達の「オバマへの手紙」に込めた強い想いが彼の心を動かし、そして訪問に至ったのです。安倍首相もまた、オバマ氏の行動に応えるようにして真珠湾を訪問しました。彼らは国の代表として国民を平和共存の世界へ導くため、行動したのです。私たちも彼らのように行動に移していけるような社会人になっていきたいと思います。

2020年、私たちが大学の4回生として社会へ羽ばたく準備をしている年、ちょうど東京オリンピックが開催されます。この中にもオリンピックで活躍している人がいるかもしれません。56年ぶりに我が国で開催される平和の祭典をきっかけに、日本と世界の国々が共に手を取り合って平和共存への道を歩んでいけるようにしていきたいです。

金光学園生活の中では多くの人と出会いました。私たちがこうして成長できたのは、先生方の存在があったからです。私たちの学園には、情熱に溢れた先生、深い学識をお持ちの先生、個性的で話しやすい先生がたくさんおられます。先生方は、時には厳しく、時には優しく、自分の力で解決できるようアドバイスをしてくださいました。いつも私たちの可能性を信じ、どんなに辛いことも、大変なことも最後まで諦めずやり抜くことを教えて下さいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

学園生活を楽しく過ごせたのは友の支えがあったからです。時には、傷つけあいぶつかることもありましたが、お互いを尊重し、どんな壁も乗り越えてきました。友の支えがなければ、今こうして幸せな気持ちを胸に、この場所に立つこともできなかったでしょう。これから歩んで行く道はそれぞれ異なりますが、心の中にはいつも仲間がいます。

そして、私たちを見守り、支えてくれた一番大きな存在である家族。家に帰ると私たちの疲れを癒してくれる居場所、

悩んだり不安になったりした時、私たちを温かく見守ってくれる居場所があります。しかし、当たり前にあるこの空間がどんなに大切か気付かず、反抗したり八つ当たりをしたりすることもありました。それでも、そんな私たちと全力で向き合い、応援してくれ、優しく包み込んでくれました。いつも私たちにたくさんの愛情を注いでくれてありがとう。これからは私たちが家族を支えていきます。

在校生の皆さんに伝えたいことがあります。それは、自分で行動を起こすということです。受け身にならず何事にも積極的にチャレンジしていってください。挑戦しなかった時の後悔からは何も生まれません。けれど、失敗したときの反省は、次に生かすことができます。ありのままの自分を出して、自分の人生を自分の手で作り上げていってください。

私たちは今日金光学園を卒業します。今、一人ひとりそれぞれの「夢に向かって」未来への扉が開きました。学園の合言葉である「人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに」を忘れずに、世のお役に立つ人を目指して「夢の向こうへ」歩み続けます。

最後になりましたが、お世話になった全ての方々に深く感謝の意を表すとともに、伝統ある金光学園のさらなる発展を願い、答辞といたします。

答辞・送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員◇

高3　廣井　馨　檀上　知里
津田　愛香　濵岡　千尋
清水　護　花咲　太一
山下　栞奈　渡邊　百香
野﨑　摩子　江原　徹
林　修一朗　森矢　大雅
今井　紗香　望月　詩奈
佐藤　茜胡　三宅　瑠奈

◇送辞起草委員◇

高2　宮嵜　有沙　澤田夕珠姫
浪越　素子　斎藤　悠維
加藤　沙希　大原健太郎
谷野　竣哉　錦織　正和
山口　美可

高1　田所　聖梧　眞田明日香
海老原　航　國本　尚憲
小林竜太朗　水田　健斗

卒業を前に思うこと

生徒

めぐりあわせ

1組　岡野　敢太

どんな6年間だった？　と聞かれたら最高の時間だったと必ず僕は答えると思います。理由は沢山の先生と個性豊かな友達に出会うことができ、楽しい学校生活を過ごすことができたからです。そんな単純なことかと思うかもしれませんが、僕にとっては大変重要なことでした。

入学当時、友達が少なく人見知りの僕はここでやっていけるのかと不安に思っていました。しかし、ほつま祭や体育会、修学旅行といった多くの行事を通して友達が増えていきました。そして、いつの間にか学校へ来て友達と喋ったり、授業を受けたりする毎日が楽しくなっていました。沢山の友達に囲まれて過ごすことができて幸せだったなと思います。

卒業を目前に控えた今となって、金光学園に来られたこと、新しい友達、多くの先生方に出会えたこと、多くの国に行けたこと、素晴らしい6年間を過ごせたこと、これら全ては奇跡のめぐり合わせだと僕は思うようになりました。少しでも僕の行動が違っていたら全く違うものに変わっていたと思うからです。そんな中で出会うことができた沢山の友達とこれからは一緒に過ごせないと思うと寂しさで胸がいっぱいです。また6年間で僕は沢山の先生がいたおかげで様々なことに挑戦し、多くの経験を積むことができました。沢山の機会を与えてくださりありがとうございました。

僕のこれからの目標は「世のお役に立てる人材」になることです。金光学園で培った様々な経験や知識をこれからの勉強に活かし、自分の夢を達成させたいと思います。社会の一員となったときにはまた新たな目標を「夢の向こうへ」設定して活躍したいと思います。これから同級生がそれぞれの「夢に向かって」いき、社会の場で大きな役割を果たすことが本当に楽しみです。

最後になりますが学園の合言葉「人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに」を実践して生きていきたいと思います。

6年間本当にありがとうございました。

卒業を前に思うこと

2組　福島　拓紀

私の金光学園生活は、高校からスタートしました。入学式当日のことはよく覚えています。どんな人たちと出会うのか、友達はできるのか、期待と不安の入り混じった感覚でした。クラスメートは、新たな仲間としてすぐに受け入れてくれました。日々の何気ない会話が、私の学園生活を充実させてくれました。

そのような私の高校3年間をさらに充実させてくれたのが、部活動でした。ク

ラスメートの誘いでラグビー部に入部しました。放課後、体験入部にいってみるとそれまで感じたことのない衝撃を受けました。私はそれまでチームプレーのスポーツを経験したことがなく、声を出し合い、お互いに協力し合ってトライを取りにいくことがとても格好良く感じられました。そして高校2年の6月末、ラグビー部に入部しました。途中入部ということもあり、やはり同級生との力の差は大きなものでした。私は仲間達からの励ましを受け、一日も早く追いつき、チームに貢献できるよう努力しました。日々の練習に加え、自宅に帰ってからも筋トレやランニング、試合の動画を見てプレーを研究しました。そういった努力の甲斐もあり、個人としては、岡山県合同選抜を経て中国地区合同選抜として全国大会を経験することができました。そして一つでも多くの「勝利」を目指した金光学園ラグビー部としては創部以来初めて、7人制県大会でベスト4に入ることができました。この試合が高校3年の引退試合だったのですが、試合終了のホイッスルを聞いたとき、仲間との思い出が走馬灯のように頭に浮かび上がりました。最後まで仲間とプレーできたことを幸せに思い、そしてまた仲間や家族、関わったすべての人へ感謝する瞬間でもありました。

部活動からは努力の大切さ、諦めない気持ち、そして仲間と一つの目標に向かって突き進む素晴らしさを学びました。この学びは私のこれからの人生において役立ち、「宝」になるに違いありません。私は金光学園で学んだことを生かして様々なことに立ち向かい、乗り越え、「トライ」を取っていきたいと思います。

青春の軌跡

3組　寺川　大希

12歳に金光学園の校門を潜ってから、あっという間に6年が経ちました。これから卒業を考えると、たくさんの思い出が思い返されると共に、寂しい気持ちで胸がいっぱいです。また、これから新たな場所で新しい生活が始まるかと思うと、そこに期待と不安な気持ちがあります。

私にとっての学園生活は、多種多様な「経験」を積み重ね、成長できた有意義な時間となりました。中学、高校と野球部に所属していました。練習の準備や片付け、掃除を行う際、ただやるのではなく周り

を見てあれができていないから、こうしよう、あそこが人手不足だから手伝おうなどといった「周りを見て考え、行動する」ということを全員で行っていました。私は元々、自分のことしか考えない人間でしたが、この取り組みを通して、段々と周りを見ることができるようになり、様々な視点から物事を捉え、行動できるようになりました。このことを学び、人として成長できたと感じています。

また、受験を終え「準備の大切さ」に気づきました。最初は、初めての受験で怖さがありましたが、自分ができる最大限の対策を立て、先生方と小論文の添削や面接練習を繰り返すことで、受験が怖さから楽しさに変わっていきました。準備を十分に行うことが自信に繋がったのだと確信し、今後、何事にも準備を大切にしていこうと思います。

この6年間、一番支えになってくれた両親、野球部で厳しく指導してくださった先生方、進路について親身になって考えてくれた担任の滝澤先生、受験や授業で関わった先生方、学園生活を共に過ごした友人たちに心から感謝しています。

この先、様々な壁が立ちはだかるかも知れませんが、学園生活で得た「経験」を生かし、一つずつ乗り越え、夢、未来へ羽ばたいていこうと思います。

金光学園、ありがとう。

3年間で学んだこと

4組　大橋　和史

私は金光学園で過ごした3年間をとても有意義なものにすることができました。特に野球部では多くのことを学びました。その中でも私が印象に残ったことが二つあります。

一つ目は自主的に行った清掃活動です。私たち野球部は、8つの委員会に分かれており、私はその中のチームの勝ち運を向上させる委員会に所属していました。運の委員会としてはゴミ拾いやトイレ掃除をしていましたが、最初は正直、何のためにやっているのか分かりませんでした。しかし、継続しているうちに徐々に結果に表れてくるようになりました。例えば、練習試合ではチャンスで回ってきたときに勝負強くなり、守備では球際に強くなりました。

二つ目は感謝の気持ちです。高校野球ではベンチに18人しか入れません。そのため、3年生が25人いる私たちのチームでは、全員がベンチに入ることができません。大会では、ベンチに入れなかった選手が泊まり込みで相手チームのデータを研究してくれました。そのおかげで相手の弱点が分かり、勝てた試合も多くありました。また、精神的に支えてくれた両親、熱心に指導してくださったスタッフの方々、応援してくださった地域の皆さんなど多くの方々に支えられてきました。

継続的な行いと感謝の気持ちを持って挑んだ夏。今まで行っていた習慣が結果となりました。玉島商業戦。8回裏2点負けから同点となり、なおも勝ち越しの場面でタイムリーヒットを打つことができました。結果はベスト8でしたが、感謝など3年間の高校野球で大切なものを手に入れることができました。この経験を糧に、大学でも活躍できるように感謝の気持ちを持って日々精進していきたいと思いました。本当に3年間ありがとうございました。

卒業前に思うこと

5組　岩崎　真矢

私は金光学園で過ごした6年間の中で、

最も印象に残っている野球部のことについて書きたいと思います。

6年前、兄が通っているからという理由で私は金光学園を受験し、合格してすぐ野球部に入ることを決めました。私は、中学野球部では、自分たちの代、つまり新チームになった時に主将に選ばれ、正直初めはわくわくしていました。しかし、主将という役柄はそんなに甘いものじゃありませんでした。新チームを始動する際に『一を大切に』という合言葉を決めました。これはなんでも最初の基本が大切であり、初心を忘れるなという意味です。この合言葉を糧に、中学野球部は全国大会まで勝ち進むことができました。チームのみんなに厳しいことを言うのは辛かったのですが、大勢の方や仲間に支えられていたのだなと実感しました。愛知まで全国大会の応援に来てくださった方々、本当にありがとうございました。

中学野球部を引退してすぐ高校野球をする人は仮入部という形で高校野球の世界に入ったのですが、高校野球は中学野球とは比べられるようなものではありませんでした。トレーニングの量、技術、礼儀などすべてが上だったのです。2年になり、新チームとなった時に主将を任されたのですが、私はチームを引っ張る自信がありませんでした。なぜなら、部員全員で決めた主将ではなかったからです。秋の県大会は前監督が指揮を執る最後の大会ということもあり、気持ちを一つにし、甲子園出場の目前まで勝ち進みましたが、甲子園に出ることはできませんでした。冬を越え、成長して臨んだ最後の夏、結果はベスト8でした。「悔しい」という思いと共に『長かった』とも感じました。それだけ私の高校野球人生は充実していたのかもしれません。支えてくれた両親、部員、スタッフの方々、そして応援してくださったみなさん、感謝しています。本当にありがとうございました。中学・高校の部活動の中で学んだことを礎にして、大学も高い志を持ってがんばっていきたいです。

卒業を前に思うこと

6組　遠山　智子

夢に向かって頑張ってきた私たちは、自分たちの手で夢の向こうへの扉を開こうとしている。6年間という日々の中で、社会の一員として何が求められているのか、人のお役に立つために自分はどんな力が発揮できるのかといったような、夢に近づくための鍵をたくさん集めてきた。

私は、人は決して一人では、生きていくことも成長していくこともできないということを学んだ。これは当たり前のことだが、普段の生活を当然だと思っていた少し前の私は、当たり前の有難さを見失っていた。この有難さに気づかせてくれたのは、高校2年の部活中に私を襲った大きな怪我だ。全治半年と申告され、部活動は疎か、日常生活にも支障をきたした。そんな時、支えてくれたのが部の仲間や友達、先生など周りの方々だ。困っている私のことを、全く話したことがない先輩が助けてくれたり、友達や先生方が励ましの言葉をかけてくれたりした。多くの方々の気遣いにより私は救われて、前向きに進む力を与えてもらった。支えてくれる人の優しさと大切さを感じた。また、コートの外で違う立場から物事を見ることで今まで見えていなかったことに気付くことができた。コートに立ち、活躍することがチームへの貢献だと思ってしまっていた私だが、コートに立たなくてもチームのために動いてくれる人たちがどのような役割を果たすのかを知った。私は、この支えがないとチームが成り立たないと分かった時、チームのみんなが主役だと思った。

私は、これからのためになる大きな鍵を手に入れることができた。大切なことに気付かせてくれた怪我と支えてくれた多くの人に大きな感謝を伝えたい。そして私もこの先、周りの人を支えることができる人になれるよう、金光学園の合言葉を胸に刻み、これから先どんな困難にぶつかったとしても私らしく前進していこうと思う。

卒業を前に思うこと

7組　細川　典子

金光学園での生活も、残すところあと僅かとなりました。中・高あわせて6年間ですから18歳の私にとっては人生の3分の1を過ごしたことになります。振り返ってみると様々なことがありましたが、高校生になってからの生活は特に思い出深いものでした。

中学の頃の私は、何かに熱中することも目標を立てて達成のために努力することもあまりしませんでした。このまま高校生活も終わらせてしまうのだろうか。中学の卒業式の日に、ふとそんな風に感じたことがありました。そんな時に支えになったのは友達の存在です。私がなんとなく過ごした3年という期間に、皆は努力を惜しまず各々の成長に繋げていました。そのことに気づいたとき、友達に恥じないような人になりたいと強く思いました。やるからには何事も頑張る。そう心に留めて、たくさんのことに挑戦しました。そうしてみるとあっという間に

時は去りゆき、今日に至ります。

最後の学校行事、最後のお弁当、最後の授業。私も皆も、これが本当に最後になるのだという自覚を持って毎日を過ごしてきました。そこには思い通りにいかなくて泣いた日や挫けそうになった日、自分の進路に対して不安になる日もありました。たぶん私は大学生になるまでも、そしてなった後も、何かしらの不安を抱えていくのだと思います。それは大きいものか小さいものかも定かではないし、いつまで続くのかも分からない。ひょっとしたら複数の不安を同時に抱えることになるかもしれない。けれどその途中には多少なりとも喜びがあると思うのです。不安と喜びを持って一歩ずつ確実に進み、自分がなりたい大人へと近づいていく。卒業はそのための旅立ちなのではないでしょうか。

旅立つのは怖いです。新しい環境への不安もあります。でも新たな世界への探究心なくして自らの成長はない。私はそう考えています。だからこそ、卒業のとき胸を張って学園を後にすることができるように、今、精一杯の努力をしていきたいです。

保護者

夢を貫いて

1組保護者　小林　智恵美

「獣医になる」と夢を持ち続けたこと。我が子のこの学園生活で、唯一褒めポイントは、そこにあるような気がします。

「最近の子供は、夢を持つことができなくなっている」仕事で知り合った、イメトレの先生がそんなことをおっしゃっていました。現実を深く知りすぎてそうなったのかしら?そう思っていたら、原因は別のところにありました。親が、夢を持ってないから・・と。夢を追いかけている親を見れば、子供も夢を追いかけるようになると言われました。

彼の夢は、努力次第で叶えることのできる夢だと思っています。コロコロ、夢が変わることなく、中学入学前から、ずっとその夢を口に出しています。今、受験で夢を叶えられるかどうかの分岐点に立った時、彼は迷わず夢を取りました。これから、まだまだ努力しないとその夢は叶っていきません。でも、その夢を『夢物語だ』と笑うことなく、応援してくださった守分先生をはじめ、多くの先生方に、お礼を申しあげます。ありがとうございました。

「学園」

2組保護者　粟井　美基

ちょっと大きめの制服に身を包み不安な表情で福塩線に乗りこんでいた6年前。温かくのんびりとした中で心身共に伸びやかに育ってほしいと願い、片道1時間の金光学園に三男は入学いたしました。

学園生活では、行事を通して仲間と切磋琢磨し成長していく姿がとても楽しみでした。中でも中3のほつま祭、体育会への取組が心に残っています。まとめ役を任された三男が全体を引っ張ることの難しさに苦しんでいた時、HRの1時間全てを息子にくださり、思いをみんなに伝え、みんなの思いを受け止め、その後は支え合いながらクラスが一つになり乗り越えていくことができました。結果は1位でなかったものの清々しい表情の大きくなった三男を見た時「これが学園！学園に来てよかった」と胸熱く思いました。

子として親として学園で過ごした16年間は私の宝物です。今後、息子たちも折に触れ学園で学んだ有難さを感じ、経験を活かしてくれることと信じております。

次の世代でも「ぜひ学園で」と思う学校であり続けてほしいと心から願っております。親子で育てていただきました。本当にありがとうございました。

「感謝」、ありがとうございました

3組保護者　濵岡　浩二

「兄ちゃんと同じ学校には行かない」そう言っていた娘が、「公立高校の受験はやめて、金光に行く」と学園の合格発表があった途端に言い、上の子と同じ金光学園にお世話になることになったのは、冒頭の言葉からでした。

私は、学園の受験を勧めたのですが、高校から入学して、友達ができるだろうか、上手く学校生活が送れるだろうか、という不安で一杯でした。

それは余計な心配で、すぐに友達もでき、部活の見学に誘われたこともあり、中学での部活動の音楽部吹奏楽を続けることを決め、吹奏楽団に入ることになりました。

音楽部吹奏楽団が大変なことは、息子からも聞いていたので、部活動と勉強の両立ができるだろうかと心配しましたが、最後の定期演奏会まで続けることができました。

先生方、吹奏楽団の皆さん、保護者の方々、友達、全ての金光学園の関係の方々の支えがあったおかげと感謝しております。

学園にお世話になり、人として、とても成長させていただいたと思います。

学園で学んだ3年間の全ての事柄、出会った方々を一生大切にして過ごして欲しいです。

保護者としましても、息子の3年間、この度卒業する娘の3年間、兄妹共に高校からお世話になった6年間、学園の先生方、野球部の関係の方々、音楽部吹奏楽団の関係の方々、全ての皆様のおかげで充実した時間を過ごすことができました。

子供達二人共、金光学園に進学してくれて、本当に良かったと思います。

親子共々、全ての皆様に感謝です。

本当にありがとうございました。

卒業によせて

4組保護者　吉岡　浩子

6年間をふり返ってみると、中学では野球部で全国大会出場という貴重な経験をすることができました。高校では初心者ながら卓球部に入り、先生方をはじめ、多くの先輩たちや同級生、後輩の支えもあり、中国大会ベスト8という結果を残すことができました。私たち保護者も卓球の奥深さや楽しさを知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。子供と一緒に私も6年を通じて様々なことを学びました。金光様のお言葉にもあるように、子供とともに成長させていただいたのではないでしょうか。

4月からは金光学園で得た多くの財産を持って、新しいステージに踏み出していって欲しいと思います。最後になりましたが、これまであたたかく見守っていただいた諸先生方に感謝申し上げます。今後の成長も見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

『充実した高校3年間』

5組保護者　木下　亜紀

小学校4年から学園の卓球スポーツ少年団に入り卓球を一から教わりました。中学受験の予定が「小学校の友達と離れたくないから公立の中学校に行く」と断念。しかし卓球に思う存分打ち込める環境ではなく後悔の毎日でした。そして迷いなく高校受験は金光学園へ。大好きな卓球に打ち込める環境と素晴らしい先生方、気のあった仲間と3年間卓球に打ち込みました。各大会にも沢山出場させていただき、3年の春には中国大会で大活躍、団体で金光学園史上初のベスト8に入る健闘ぶりで、息子の真剣な姿に仲間の親御さんと一緒に大声援を送って盛り上がりました。

引退後、すぐに受験モードに切り替えられたのは先生方が真剣に向き合いアドバイスしていただいたお陰と感謝しています。春から親元を離れて一人暮らしが始まります。

お世話になった先生方や大切な仲間と頑張ってきた日々を忘れずに次の目標に向かってしっかりと前を見て進んでほしいです。そして大好きな卓球も続けて心身共に更に成長してくれたらと願い、今後も応援していこうと思います。息子を大きく成長させてくれた金光学園！　ありがとうございました。

出逢いに感謝

6組　江原　優子

息子は小学1年生からソフトボールスポーツ少年団に入りキャッチャーをしていました。小学生の頃、夏休みのラジオ体操を金光教本部前でしていたことから毎朝のように見かける金光学園野球部の小林前監督に憧れ、マスカット球場によく試合観戦に行っていました。そしていつか自分も金光学園のユニホームを着てマスカット球場でプレーしたいと言うようになりました。金光学園に進学するに

あたって息子は「文武両道」、「有言実行」を目標にあげました。大変、有り難いことに素晴らしい指導者や仲間に出会い、共に切磋琢磨し、中学3年生の夏、マスカット球場に立つことができ県大会で優勝し中国大会で準優勝、全国大会まで出場することができました。

私が一番心に残っているのは、中学最後の夏の大会の開会式に仕事で見にいけないと言った時、「じゃあ閉会式を見てもらえるように頑張る」と言ってくれたことです。閉会式は勝ち進んだ最後の2チームの保護者しか見ることができないステキな光景でした。チームメート、ご指導してくださった先生方に本当に感謝して

います。そして高校生になり、いよいよ憧れの小林監督にご指導いただける時がきました。しかし、監督は家庭のご都合で高2の秋まででの勇退が決まっていました。大変厳しく、萎えて帰宅する日もありましたが小林監督と1日でも長く野球をしたい、を合言葉に秋大会を優勝、中国大会までいき「あとひとつ」の勝利で甲子園もみえてきた所で敗退してしまいました。中国大会から帰宅して2日後、「もう小林監督さんとは野球ができないんじゃ…」と机にふせて泣きじゃくっていました。そして気持ちの整理をつけ、ずっと一緒にやってきた仲間、今まで叱咤激励してくださった新監督の高田監督と高3最後の夏をベスト8で終えることができました。帰宅した息子は「12年間、本当にありがとうございました。僕の野球人生に悔いはありません。これからは次の目標に向かってまた頑張るのでよろしくお願いします」と深々とお辞儀をしてくれました。朝練に午後練に休日は練習試合…、学習時間の確保は本当に大変そうでしたが、学園の先生方の励ましやサポート、クラスの友達のおかげで文武両道に頑張れたと感謝しています。

息子も私も学園で築けた絆は一生の宝物としてたいせつにしていきたいと思います。

「6年間を振り返って」

7組保護者　細川　欣洋

地元の小学校から、たった1人の入学。しかも、遠距離の電車通学。「6年間本当に通学できるだろうか」というのが入学時の率直な思いでした。しかし、この学校で学びたいという小学6年生の選択は尊重してやりたいと思いました。

6年間の学校生活は、部活動や生徒会活動にも参加し、有意義なものであったと思います。中高の6年間は、その後の進学・就職への通過点でもあるのですが、この6年分の充実感は、これからの人生における何物にも代えがたい宝物になったのではないかと考えています。

保護者として、子供への支援は十分にできていません。勉強で分からない箇所があると言えば「先生に聞きなさい」と伝え、どうすればいいだろうかと言えば「自分で考えてやりなさい」と答えました。

高校卒業後は、知人のいない町で一人暮らしをすることになりますが、これは18歳の選択です。「自分で考えてやりなさい」と親はもう言いませんが、そうせざるを得ない状況を自ら選択したのです。自らの選択を有意義なものにするため、これからもその時その時を楽しみ味わうとともに、多くのことを学び続けてほしいと思います。

先生方には、子供をいつも温かく見守り導いていただきました。6年間、ありがとうございました。

卒業短歌

■1組■

東風(こち)吹かば思い起こせよ学び舎を
巣立ち行くとて誇り忘るな
猪原　豪

今を生き慶びを知り学を成す
為さねば成らぬ泰平の世
千神　泰成

たいぎいとたれてはいたけど楽しくて
友達(とも)とちばけるぼっけえ青春
廣井　馨

桜散る駅のホームで君の名を
呼ぶ声にのる君への想い
若林　美帆

■2組■

金光の学園生(つわものども)が夢の跡
見果てぬ未来(さき)へ歩みは止めず
川本　大貴

忘られぬ試合の後のミーティング
後に続け俺らの闘志
福島　拓紀

一礼し悔いなく投げたストレート
戦友(とも)へと繋ぐ最後のマウンド
守屋　元輝

朝起きて夢を見ながら学校へ
楽器の音で目覚める私
津田　愛香

■3組■

忘られぬ想いは心(むね)の光から
行く未来(さき)照らす標(しるべ)とならん
黒田　優良

思えども想い絶えざる今はただ
末見ぬ明日よ燃え焦がるるを
橋本　宜幸

迫り来る卒業の時と別れの時
新たな学びに想いをはせる
藤岡　祥之

六年間友と過ごしたその日々を
笑顔と共に脳裏に刻む
小田　萌奈

■4組■

桜舞う頃は青くて光ってた
気づけば今は単独坊主
眞田　剛寛

五時間目悪魔ささやき「すぐ寝れば？」
天使ささやく「無理したらダメ！」
吉岡　心

いつの日か夢見る頃をとおりすぎ
負けることなくハスを咲かせる
南　里佳

高校で本を読むのももう終わり
次に開くは自分の道だ
渡邊　百香

■5組■

六年間いつも近くで見てくれた
おつかれさまです保護者会長
岩崎　真矢

校庭の隅で奏でた協奏曲(コンチェルト)
恩師に学び次の舞台へ
田中　啓右

これからは歩む道こそ違えども
友との絆切れることなし
山本　匡悟

毎日を共に過ごしたスカートの
ほつれた裾となびく思い出
利守英里佳

■6組■

うららかに春薫る日の朝露に
映る三年(みとせ)は一睡の夢
福田　智章

冬が明け春に流した悔し泣き
今でも残る夏の感触
松村　佳拓

花束と思いを胸に四重唱(カルテット)
涙とともにマイウェイ走る
池野　未夢

窓のそとそっと微笑むメタセコイア
嬉しい時も涙の時も
岩崎　温子

■7組■

朝日浴び心も体もリフレッシュ
新たな旅路今歩き出す
奥村　武史

連れ添った背中のリュックは色あせど
友との日々は鮮やかに残る
小畠　由依

ことのはを紡ぎ重ねた三年間
いまだ届かぬ望月を仰ぐ
山口　璃菜

これからは違う道へと行く友に
最後に言いたい今「ありがとう」
渡邊奈南子

贈る言葉

周りの人たちを幸せにするために…

高3学年主任　定金　肇

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

君たちと出会ったのは3年前の春でした。私は初めての学年主任として、とても緊張しながら初々しい君たちを出迎えたのを覚えています。

そんな君達が、いよいよこの金光学園を巣立っていくわけです。これから皆さんはそれぞれの道に進んでいくわけですが、金光学園で培われた良き精神を胸に、実社会に出て力を存分に発揮してもらいたいものです。

「世のお役に立つ人材を育成する」

これが金光学園の精神です。どんな小さなことでも結構ですから、人のお役に立つ、社会のお役に立つ、そんな大人になってもらいたいと思います。そのためにも、自分を常に磨いていってほしいものです。

ここまでは「夢に向かって」頑張ってきたと思いますが、これからは「夢の向こうへ」向かって突き進んでもらいたいと思います。君たちが学んできたものを、これからは世の中や周りの人たちを幸せにするために生かしてもらいたいと思います。

「少年老い易く学成り難し　一寸の光陰軽んずべからず」

今しか出来ない「勉強」があります。その時その時を無駄に過ごすことなく、有意義に過ごしてください。金光学園での教えは、言葉として教えられたものばかりではありません。言葉以外で教えられたことも非常に多くあります。もう一度この学園生活を振り返ってみて、金光学園で学んだことを今後の人生の糧としていただけたらと思います。応援していますよ。

贈る言葉

守分　俊浩

ご卒業おめでとうございます。

みなさんが中学校に入学する1か月前に東日本大震災が起こりました。現代を生きる私たちにとって、経験したことのない甚大な被害をもたらし、多くの人々の尊い命を奪いました。今もなお避難生活を続けている人は12万7千人（1月末時点）もおられます。この1年を振り返ってみても熊本や鳥取で大きな地震がありました。自然の力に、なすすべもない人間の力の弱さを再認識しました。

中1・高1の学級通信『夢工房』で、2011年3月26日付朝日新聞に掲載された記事を紹介しました。その中で被災された方々を励ました「アンパンマンのマーチ」の歌詞の一部を改めて書いてみます。

そうだ　うれしいんだ
生きる　よろこび
たとえ　胸の傷がいたんでも
なんのために　生まれて
なにをして　生きるのか
こたえられない　なんて
そんなのは　いやだ！
今を生きる　ことで
熱い　こころ　燃える

だから　君は　いくんだ
ほほえんで
そうだ　うれしいんだ
生きる　よろこび
たとえ　胸の傷がいたんでも
ああ　アンパンマン　やさしい　君は
いけ！　みんなの夢　まもるため
金光学園を卒業されるみなさんは、これから日本全国、いや世界中で活躍されることでしょう。その際、心に留めていて欲しいのは、歌詞にある「生きる　よろこび」、「いけ！　みんなの夢　まもるため」という言葉です。学園在学中に、何度となく「人のお役に立てる人に」という言葉を聞きました。これからの人生で、人のために頑張る時間があってもいいと思います。自分にできることを少しずつ人の役に立つことに使えると、豊かな人生が送れると信じています。

命を大切に、これからも活躍されますよう、お祈りしています。

6年間ありがとうございました。

今をたいせつに！

久繁　正人

ご卒業おめでとうございます。皆さんが入学してきた時のことを思い出すと、あっという間だったなぁと感じつつも、本当に濃い時間を一緒に過ごさせてもらったなと感慨深く思います。たくさんの時間の中で、様々な話をしてきましたが、入学式で希望に満ち溢れていた皆さんに投げかけた質問を私の贈る言葉とさせていただきます。

皆さんは、毎日86400円もらえたらどうしますか？　そのお金は1日の終わりには使っても使っていなくても0円になります。次の日の為に貯金することはできません。ですが、1日の始まりには必ず、また新しい86400円がもらえます。すべてを使い切ることは難しいかもしれませんが、できるだけ自分のため、人のために使った方が得ですよね。あなたならどのように使いますか？

皆さんには、毎日、86400秒という時間が平等に与えられています。将来頑張りたいことが有る人、現状に満足していない人、今の自分を変えていくのは、今の自分自身だけです。やりたいことが有っても無くても、時間は止まってはくれません。チャンスを掴み取るために必要なことは、今、この瞬間をどれだけ一生懸命に過ごせるかということ。今できることをしっかりやり切ってほしいと思います。

たった今からの時間、どのように使うかは、あなた次第です。Make it count！今をたいせつに！

つながりを大切に

滝澤　有美

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新しい門出を心から祝福しています。これまで様々な出来事を乗り越え、成長されてきました皆さんと多くの時間を共有できたことは、とても嬉しく感謝しています。

卒業が近付くにつれ、自分の意思を固め、自分で決定していく皆さんの姿を見ていると心強く感じました。これから先、自分の責任で道を切り開いていくことがさらに多くあると思いますが、その時、皆さんを支える周りの人の意見を参考にしてみてください。家族や友達だけでなく、私達にも顔を見せにきてくださいね。ここまで出会えてきた人達との縁を大切に。自分から縁を大切にする人は、他の人からも大切にされます。道に迷いそうにな

る時、新しい決断をする時、お互いに支え合える仲でいてほしいと思っています。仮に途絶えてしまったとしても、また取り戻すことができるのは人と人とのつながりです。

最後に、卒業生の成長をあたたかく見守ってこられた保護者の皆様、この度はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。今後の活躍がこれからも楽しみですね。

卒業生の皆さん。身体に気を付けて、自信を持って堂々と自分の道を進んでください。多くの挑戦を経てきた皆さんなら、この先も自分の足で歩んでいけると思います。ご活躍を楽しみにしています。

言葉を贈る

高司　和道

「サヨナラダケガ人生ダ」

井伏鱒二が漢詩『勧酒』の4句目「人生別離足る」を口語訳したものだ。

こんな妙訳が心に残る。生きるとは別れに向かうはかないもの。だったら生徒諸君。

後ろを振り返らず走れ。生きることに懸命であれ。失敗とは転んでも立ち上がれないことと思い何度も立ち上がれ。

野に咲く桜は美しいがぱっと散る。それよりも厳冬に耐え、目立たずとも長く咲く梅の花であれ。

洗練されたその景色をみたいなら、生活が日々修行と思い、心に山をこしらえるのがよい。

意味があるかはわからない勉強も知の融合を迎える瞬間がある。それを楽しみにしておけ。

とめどなく流した青春の汗は、友と築いた熱き感動は、かけがえのない人生の糧となった。

立ち止まりさえしなければどれだけ遅く動こうと問題ない。君たちがいつか世界を動かすことを期待している。

地球上の常識は非常識と表裏一体だ。日常の常識は一度は疑うものと心得よ。

平成もあと2年でサヨナラダ。「さよならだけが人生ならば人生なんていりません」この寺山修司の詩に、君なりの言葉を織り込んで、君なりの人生を歩んでほしい。生徒諸君。卒業、おめでとう。

※この文章にちょっとした仕掛けを施してみた。気づいた生徒は高司まで連絡を。

卒業おめでとう

平賀　康

ご卒業おめでとうございます。高3の1年間だけ学年団に所属させていただきましたが、1年間はとても短く、本当にあっという間に時間が過ぎ去っていきました。だいぶ皆さんのことがわかってきたかなと思ったらもうお別れになってしまいました。

最後に贈る言葉として、今後のみなさんの大学生活に少しでも役立てばと思い、自分が大学生活で学んだことをアドバイスとして書かせていただきます。

一、大学からは何も与えられない

高校までは学校側から、生徒がうまくいくよう全て用意して与えてくれたと思いますが、大学では何もありません。こちらが積極的に求めれば、何でも揃うすばらしいところですが、その求めるものがなければ、大学生活はとても虚しいものになってしまいます。自分から積極的に、何かを求めてください。

二、自分を成長させてくれる人々が、全国から集まっている

進学すると、そこには、全国からたくさんの人が集まってきていて、自分を成長させてくれるきっかけを持った人が山ほどいます。今までの人生にはいない、異質な存在がいるかもしれませんが、その人達と関わることを恐れず、たくさんのことを学んでください。

三、成功するチャンスは目の前をどんどん通過していく

進学後は、就職先など、自分の人生の方向性を決めていかなければなりません。その方向性を決める手がかりとなるチャンスは入学後、たくさんの人達が運んできてくれます。しかし、そのチャンスにビビったり、躊躇したりするとそのチャンスはすぐに遠くへ行ってしまいます。チャンスだと思ったら迷わず飛びつき、まずはやってみましょう。

大学生活を歩んでいくコツはいつもなら現社の無駄話に込めるのですが、1年では伝えきれませんでした。とても残念です。みなさんが積極的に人生を楽しみ、たくさん失敗もして、最高の大人になって金光学園に帰ってくることを、私は楽しみに待ちたいと思います。

決めゼリフを持とう

水野　大一

皆さんご存知の通り近年、多くの企業が新社会人に求める力としてコミュニケーション能力を上位に挙げています。それに伴い、巷でもコミュニケーション術や会話術などの書籍にあふれています。また、不言実行の言葉に見られるような口数の少なさを美徳とする日本文化に比して、アメリカでの意見を表明しないことを無力とする文化に合わせ、益々グローバル化が進む日本社会でも池上彰氏の著書にある『伝える力』が社会全体で求められている風潮があります。

さて、この1年、皆さんは受験勉強に全力投球する中で、苦しいときや辛いとき、決断を迫られたとき、ご両親や先生方、友人、偉人の言葉などに励まされ、支えられてきたことと思います。あの時、あの言葉のおかげで今がある、卒業に際してそんな想いを抱いている人も少なくないでしょう。また、皆さん自身が今までの人生経験の中で、誰かを言葉によって励ましたり、元気づけたりしたこともあるでしょう。

このように、臨機応変に伝える力を持つことは本当に大切なことです。それと同時に、私はこんなことを考えます。「伝える」とは基本的に言葉を介して、自分以外の誰かに行うことですが、それ以前にもっと大切なのは「自分自身に伝える」力ではないかということです。

わかりやすく言えば、自分で自分に言って聞かせるということです。

前途有望な皆さんの今後においても当然、様々なことに出会います。苦しいときに、上杉鷹山の言葉を借りて、『為せば成る』と自分に言い聞かせる、目標を達成したときに北島康介の気分で『何も言えねぇ』と心の中で叫び嬉しさを噛みしめるなど、自分自身を前向きな気持ちにする自分自身への決めゼリフをたくさん持つのも案外いいかもしれません。

夢に向かって

宰相　裕一

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。入学してから2年ないし5年間

皆様と一緒に過ごしてきました。学年主任または担任として、授業や行事・部活動を通して皆様と接し、それぞれに成長した姿を現在見ることができ大変感慨深く思っています。これからそれぞれの道を歩んでいかれることと思いますが、校長先生がいつも言われている「世のお役にたつ」ため、そして、「自分の可能性を広げる」ためにこれからも努力して行って欲しいと思います。

"Anything is possible, if you want !
Just do it !"

私は数年前のある講習会で、トレーナーとして国際的に活躍されている講師の先生から陸上のカール・ルイス選手が言われた言葉であると聞きました。我々の時代には、陸上の神様といっても過言ではないほど優れた選手でした。その講習会の中で先生が、「自分の可能性に蓋をするな」、「何事も思えば叶う。そのために努力しなさい」と言われました。

夢を追い求めて努力をされ、国際的に有名なトレーナーになられた先生の言葉は、私にとって大変重みがありました。

だいぶ年をとりましたが、これから私自身も私の「夢に向かって」努力していきたいと思います。皆様も、健康に気を付け、自分の可能性を広げ、「夢に向かって」努力していってください。

切り取る

岡田　伸彦

先日、学生時代の友人と料理をする機会がありました。互いの好物である鶏を一羽丸々使って、何品も作っては食べ尽くそう。そんな素敵な企画を持ち掛けられたのです。

かつて料理人を志していた友人の包丁さばきは、それは見事なものでした。大きな鶏肉がどんどん解体されていく様子は、まるで手品や魔法のようです。自分の作業に集中しなよ。ぼんやりと見惚れる私に苦笑しながら、彼はあっという間に素材を切り分けていきます。

ああ、言葉の働きと同じだ。流れるような包丁の動きに目を奪われながら、ふとそんな風に思いました。もしも様々な部位の名称を知らなければ、切り取られた食材は、どれも単なる鶏肉の欠片にしか見えません。「もも肉」という言葉を知っているからこそ、私たちはそれが「胸肉」や「ササミ」とは異なるものだと認識できるのです。言葉によって名づけること。それは、ある物体や事象をそれ以外と区別することに他なりません。ちょうど大きな肉の塊から包丁で、もも肉だけを切り取るように。

別の例を挙げてみましょう。「夕立」「秋霖」「狐の嫁入り」など、日本語には雨を表す言葉がたくさんあります。農耕民族である我々の祖先は、暮らしに寄り添う天の恵みを実に繊細に捉えていました。呼び方が違おうが、どうせ雨には変わらない。そう考えるよりも、「時雨」と「村雨」に異なる趣を感じられる方が、ほんの少しだけ毎日が潤うような気がします。卒業生の皆さん。これから先に出会うすべてのものを、丁寧に切り取ってください。目にするもの、手に触れるもの、心に生じてくるものを、どのように名づけるか。それは、いかに生きるかという問いと同義です。関心が深まるほどに、真摯に向き合うほどに、細やかな言葉が生まれます。瑞々しい言葉の数々で、どうか人生を鮮やかに彩ってください。

最後に、余談を一つ。友人の忠告を聞かず、いらぬことばかり考えていたせいでしょう。大根と一緒に危うく指まで切り取りそうになりました。まさに間一髪。包丁は使い方を誤れば人を傷つけてしまいます。言葉もまったく同じです。お互いに心を砕いていかなければなりませんね。それでは、ごきげんよう。

母校の心をたいせつに

新谷　忠彦

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

平成26年4月8日、希望に胸ふくらませて入学され、はや卒業となったのですね。その間、多くのことがあったと思います。これからは学園で学んだことを基として、失敗を恐れず日々努力し、大きく成長してもらいたい。仲間や後輩、先輩、両親や家族……支えてくれたすべての方に感謝しつつ、母校の心を、教えを大切にし、人として、それぞれの進路先で大いに飛躍し、次世代を担う人となってもらいたい。

健康に留意し、おおいにはばたけ。心からおめでとう。

素敵な人生を

小橋　聖里奈

たくさんの出会いがありました。あなたの為に本気で喜び、本気で泣き、本気で怒ってくれる人は、かけがえのない存在。同じ教室で多くの時間を過ごした友達は、生涯の宝物となるでしょう。これからもたくさんの人に出会い、たくさんの人の言葉に耳を傾け、幸せな未来を創り出していって下さい。大好きなみなさんへ、人生の門出に2つの言葉を贈ります。

『私は、実験において失敗など一度たりともしていない。これでは電球が光らないという発見を2万回してきたのだ。～トーマス・エジソン～』これから広い世界に出ていけば、様々な困難が待ち受けていることでしょう。しかし、何度壁にぶち当たろうとも、失敗しようとも、それは成功に近づくためのプロセスにすぎず、失敗ではないのです。どんな経験も決して無駄にはなりません。失敗をおそれず、チャレンジし続ける人でいて下さい。

『世界はまるで鏡のようなもの。世界を変えるには、自分を変えるしかない。～アレイスター・クロウリー～』何か嫌なことがあった時、嫌なことと判断しているのは自分自身。周りのせいにして機嫌悪く過ごしても楽しくない。状況が変わらないなら自分の考え方を変えた方が楽しく過ごせます。最悪なことも、「ま、いいか。これもありかな」と視点を変えてみましょう。考え方一つで物の見方が変わり、見える世界が違ってきますよ。自分が幸せな方が得ですものね。

身近な小さな喜びを見逃さず、いつも笑顔でいて下さい。笑っていれば幸せがきっとどんどん舞い込んできますよ。あなたたちの素敵な人生を、いつまでも応援しています。卒業おめでとう。

さらなる活躍を

藤原　俊浩

この学年を担当し、1年が経とうとしています。改めて振り返ってみると、もっと長くに渡って関わってきたかのような、とても充実した楽しい1年だった気がします。特に今年度は、文系全クラスの授業を担当できたので、多くの皆さんとも関わりを持てました。皆さんが将来の目標や進路に向けて、一生懸命に努力しているこの時期に、一緒に学ぶ機会を持てたことを大変嬉しく思います。いよいよ次のステップに進むことになりますが、学園で学んだことを活かして、しっかり羽ばたいていってください。

道 (17)

金光　道晴

「聖良寛文学賞」授賞式に出席して

「聖良寛文学賞」という賞があります。岡山県の備南地域の文学功労者を表彰し、地方文化の発展に寄与することを目的として創設されたものであります。地域の文学功労者に贈られるものですから、広く知られているとは言えないかもしれません。今年は、先月の2月11日に倉敷市玉島の市民交流センターで、第32回の表彰式が行われました。その名前からもわかるように、江戸時代、玉島の円通寺で修行をしたといわれる良寛さんにちなんで作られた文学賞です。この「聖良寛文学賞の会」は昭和56年に10月10日に倉敷市玉島の円通寺のある百華山頂に、歌人の木俣修と日本軽金属（株）相談役の中川仲蔵の両氏の歌碑建立を記念して、設立したのが始まりであります。その翌年に第1回の授賞式を行い、今年で第32回になります。設立以来これまで59人の方々がこの賞を受賞されましたが、実はこの会の設立者の中川仲蔵という方は、倉敷市玉島上成の出身で、大変苦学をされながら、金光学園（当時金光中学）に入学され、卒業された大先輩なのであります。したがって「聖良寛文学賞」のことは知らなくても、金光学園の関係者なら中川仲蔵という方の名前は、中川奨学金で聞いたことのある人が多いと思います。この方は、昭和の最後の日、つまり昭和天皇が崩御された昭和64年1月7日にすぐ後を追うように、90歳という年齢でお亡くなりになられました。その中川仲蔵さんが、郷里の玉島を中心とする備南地方の文化発展のために、多額の基金を寄贈され、設立されたのが「聖良寛文学賞の会」なのであります。設立のはじめ、会長には円通寺住職が、副会長には金光学園の校長がその任にあたる内規が定められましたので、加賀道郎前々校長も、佐藤元信前校長も、その任にあたられており、私も至らないながら、その跡を受けさせていただいているようなことであります。

中川さんのことは、実は一昨年の創立記念式で生徒にお話し、その年の12月の「やつなみ」243号にも載せていただいているので、詳しくはそれお読み頂ければと思いますが、改めて簡単に紹介させいただこうと思います。

生まれは玉島上成で、少年時代には大変な苦学をなさった方であります。当時円通寺にあった尋常小学校に通い、卒業後は、家計を助け、病に倒れたお父さんの薬代を稼ぐために、玉島の新聞販売店に住み込みで働くようになります。毎月わずか5円の月給の中から、小遣いは一銭も使わず、自分の勉強のための教科書代とお父さんの薬代を出していたそうであります。

しかし、そのお父さんも中川さんが17歳の時に亡くなられ、その後金光中学校に入学され、22歳で卒業するまで、住み込みで新聞配達を続け、大変な苦学されながら学校に通ったのであります。

中川さんは毎朝2時に起きて、玉島から自転車で、当時急行列車が停まっていた鴨方駅まで、大阪から送られてくる新聞を取りに行って、それを玉島に持ち帰り、改めて整理して配達人に渡し、自分も玉島の町内や乙島などの配達をし終えて、それから学校へ通って勉強をしたというのであります。毎日30キロは自転車に乗っていたそうであります。

大変な貧乏の中、苦学をしつつ奨学援助を受けながら、当時の金光中学校を卒業しますが、自分が今あるのは、母校のおかげと感謝し、その恩に報いたいと金光学園に多額の寄付をされ、中川奨学基金を設立されたのであります。

中川さんは、金光中学を卒業後、現在の一ツ橋大学（当時の東京商科大学校高等専門部）に進まれ、卒業後は古河電工や日本軽金属などに勤められ、やがて、日本軽金属の副社長、日軽アルミの社長、そして会長を歴任された方であります。母校だけでなく、さらに自分が生まれ育った古里にも恩返ししたいと言われ、多額の基金を寄せられ、設立されたのが、この「聖良寛文学賞の会」であります。

ところで、今年の受賞者の一人は村上正則先生という倉敷市児島の90歳になられるお医者さんでありましたが、受賞後に、次のお話を聞いて、元気をいただきました。先生が88歳の2年前、岡山で日野原重明先生というあの有名な当時103歳の現役のお医者さんを招いての講演会があり、自分が応接役になったそうです。すると日野原先生は「貴方は何歳になられますか？」と聞かれたので、「もう賞味期限の切れた88歳です」と答えると、日野原先生は「『もう』ではなく『まだ』88歳ですか。今が一番いい時で、いい年齢です」とおっしゃられ、村上先生は恐れ入ったと言われるのです。そして、村上先生は健康に年を取るためには、万・千・百・十・一の5つの数字を大切にしていると話されました。

①足を使う（一日一万歩を歩く）。
②手を使う（一日千字文字を書く）。
③一日百回深呼吸をする（心が落ち着く）。
④一日十回心の底から笑う、あるいは十人の人と会って話す。
⑤一日に一回は趣味に取り組む

だそうです。私などはついつい「もう」とか「今さら」ということばを使ってしまいますが、「もう」ではなく「まだ」、「今さら」ではなく「今から」という心持ちで何事にも取り組んで行くことが大切だということを教えて頂き、元気をいただいたようなことでありました。その受賞者村上先生とお話するうちに、お孫さんが、数年前の本校の卒業生であったことを聞かせていただき、不思議なご縁を感じさせていただいたようなことでありましたが、私にとっては心洗われる冬の一日になったのであります。

やつなみ保護者会のページ

感謝の心

高3陸上競技部保護者　眞田　文子

「走るのが好きだから陸上競技部に入る！」

入学の日、キラキラと目を輝かせそう言った息子があっという間に卒業を迎えます。

入部当初は、靴の選び方や大会の仕組など分からない事ばかりでした。先輩に一から教えてもらい、インターハイを目標に仲間と練習を積み重ねました。顧問の先生のモットーは文武両道で、競技だけでなく生活面もしっかりとご指導下さいました。優れた競技者は人格者でなければならないのだと、母親である私も教えられる思いでした。息子の部屋には、400m目標記録と自身を鼓舞する格言が所狭しと貼付けられています。

そして、念願であった岡山開催のインターハイで大応援団の中、出場し、かけっこ好きだった少年が、こうして金光学園で成長した姿に思わず涙してしまいました。

百分の一秒をいかに越えていくかを競う息子は記録として数字を残していきますが、その小さな数の先に多くの方の支えがあり、その支えがどれ程にかけがえのない財産となっていくかを忘れないでほしいと思います。

6年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

ありがとうコーラス部

高3音楽部コーラス保護者　金光　和美

「去年はあそこにいたんよな…」高校棟から見える中学棟の部室を見つめ娘がつぶやいた。部室では一生懸命に部員たちの指導をしている先生の姿が見えた。2月にある岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテストの練習をしているのだろうか…。アンサンブルコンテストと言えば一昨年男子が金賞を受賞し、昨年高3女子も初の金賞を受賞することが出来た。あの時の子供たちの顔が今も忘れられません。幼稚園や施設への訪問、そして岡山県の代表として広島で開催された総文祭に出場と大変貴重な経験をさせていただきました。一人ひとりの違う音色が一つの曲を創り上げる難しさ、それはこれからの子供たちの糧となってくれることを信じています。この学園で子供たちと共に過ごせたこと、子供たちをここまで支えて下さった顧問の先生方、諸先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

感動をありがとう！

高3音楽部吹奏楽団保護者　堀　真弓

平成28年5月3日、高3生は音楽部吹奏楽団の部員として最後の演奏を終えました。「栄光の架橋」の演奏にのせて、仲間たちとの思い出のスライドが流れる中、演奏会が始まり、歌劇や初めての試みであったマーチングを取り入れた圧巻のラストステージでした。スポットライトを浴びて、楽器を構える姿は誇らしげで自信に満ち溢れていました。

これからの長い人生の中で多くの感動を得ることはあっても、人を感動させるという機会は数多くはないと思います。笑ったり泣いたりしながら、みんなで作りあげてきた「音」という作品は、聴いている私たちにたくさんの感動をくれました。子供たちにとって、その瞬間に出会えたことは、何よりも貴重な経験になったことと思います。

これからは、一つ一つのことが多くの人に支えられていることを忘れずに感謝の気持ちを持って、そして仲間たちとの思い出を大切に、次に目指す舞台に立ってほしいと願っております。

最後に、子供たちや私たち保護者にこのような素晴らしい機会を下さいました金光学園に心から感謝申し上げます。

「夢・感動・感謝」

高3野球部保護者　岩崎　恭子

2人の息子達が金光学園にご縁を頂き、早くも8年が経ち、この春、長男に続き次男も「学・徳・体」を学ばせて頂いたこの学園を巣立ち、新生活の一歩を踏み出す事になりました。文武両道を目指し、将来社会でお役に立てる人になれるように、きめ細やかな御指導とお見守りを頂き育てていただきました。

部活動では、中・高と野球部に所属し、監督さんをはじめ多くの指導者の先生方より技術面のみならず、精神面も育てて頂き、主将としての人間力・チーム力もご指導頂きました。平成25年には念願の岡山県大会初優勝、そして中国大会準優勝、全国中学校軟式野球大会への出場を叶え全国ベスト16位という快挙を遂げることができました。高校進学後は中学野球部員と新たに加わったメンバーと共に「甲子園を目指す」という強い信念のもと日々練習に励み、27年秋季岡山県大会初優勝、中国大会初出場を果たし、春の選抜甲子園出場をかけて戦いました。お忙しい中ご遠方の試合会場まで駆けつけて下さったOB会、後援会の方々をはじめ、温かく応援いただきました多くの皆様方にも感謝の気持ちでいっぱいです。残念

ながらあと一歩というところで夢の甲子園出場には届きませんでしたが、金光学園野球部の歴史的感動の瞬間に保護者として携わり皆さんと一緒に夢を見させて頂き、感激を胸に刻ませて頂きましたことも大変有り難く思い返しております。

今後も親子共にこの学園で出会った仲間や友人という「宝物」、沢山の経験から得た「財産」を大切に歩んで参りたいと思います。

校長先生をはじめ、多くの全ての先生方、また野球部でご指導下さった皆様、仲間・先輩・後輩の皆様、保護者会の皆様に心より感謝申し上げ、金光学園の更なるご発展と皆様方のご活躍をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

教養部編集後記

高1保護者　髙田　美雲

学園にお世話になって4年目。役員は初めてで当初、どのようなことをするのかも全くわからず私に務まるかどうか不安もありましたが、教養部の皆さん、三役担当の大島さんの温かいサポートをいただきながらなんとか無事に終えることができました。

友愛セールでは、役員や代理で来てくださった方々との準備・当日の担当など、一丸となって作業し、忙しいながらも楽しく活動できました。終わった後のあの達成感。今となっては役員の皆さまとこのような活動ができ本当に良かったと思っております。

研修旅行には残念ながら参加できなかったのですが、大変充実した1年を過ごさせて頂きました。

この1年、部長の井上さんにはお世話になりっぱなしだったと思います。

また、お力添えくださった先生方、原稿依頼に快くご協力くださった皆さん、教養部員の皆さんにも大変感謝しております。本当にありがとうございました。

表紙の言葉

中1　福武　莉奈

私は、「麗しき春の七曜また始まる」という句を絵にしました。私は、この春の句に合うような一日の始まりでもあり、1週間の始まりでもあることが絵を見て伝わるようにこの絵を描きました。

この絵の中で一番苦労したことは花弁の色です。普通は桜の花弁はピンクというイメージですが、ピンク一色だと鮮やかさに欠けるので、ピンク以外の赤やオレンジ、黄色、緑色などを入れました。背景が空色なので、桜の花弁がよりきれいに見えます。

この絵のポイントは、少女が木の前に立っていて目を閉じているところです。この少女は、春が始まる瞬間を感じて静かに闘志を燃やしているところを描きました。初めは、道の真ん中に立っていてそのはしっこに木があるという構図にしていたのですが、桜をもう少しちゃんと見せたいと思い、木を大きく真ん中にもってきました。

この絵を見た人が、「私も目標を持って春から頑張ろう」と思ってもらえたらうれしいです。

会報

第五回評議員会　2月14日　13時30分～14時20分。難波副会長司会。内容は以下のとおり。一、平松会長挨拶。二、協議事項。①平成29年度会長・副会長・監事選出の選考委員を決定。選考委員長、松本万由美。選考委員、細井正恵、淺田真理子、高田美雲、仙田淳子、坂本喜美子。②平成28年度友愛セール売上金の使途について以下の通り承認された。アクティブラーニング室と自習室の整備、高校1、2年普通教室13室、及びアクティブラーニング室と中学音楽教室にプロジェクター設置を、今年度高3卒業寄付と教育後援会メタセコイアの会からの寄付を合わせて寄贈することに決定。③平成29年度保護者会総会の日程。4月29日（土）に。講演講師に弓削田健介氏（合唱作曲家）に決定。④その他、保護者会サークル「茶話会　和賀心」新設が提案され承認された。

第三回全役員会　2月14日　14時25分～15時50分。難波副会長司会。開会に先立って、1月9日にご逝去された、吉原幸恵様に黙祷を捧げた。役員会の内容は以下のとおり。一、平松会長挨拶。二、金光校長挨拶。三、学校近況報告。（横山教頭）四、協議・報告事項。①指導・教養・庶務各部から年間総括と次年度への申し送り事項。②研修・出張報告。③平成28年度会会計決算見込みの報告。④平成28年度友愛セール売上金の使途について⑤平成29年度会長・副会長・監事選出の選考委員決定の報告。⑥平成29年度地区委員・評議員選出について。⑦金光教春の大祭の湯茶接待奉仕のお願い。⑧教職員外部診断のお願い。⑨平成29年度保護者会総会について。⑩やつなみ保護者会サークルに「茶話会　和賀心」が新設されることが報告された。五、その他連絡事項。六、加賀副会長による閉会挨拶。

急なこととして、ＯＨＫ放送の番組で本校が紹介されることになり、役員会の様子も取材された。

諸会合

○1月20日　幼こ小中高ＰＴＡ連合研修大会（岡山）平松会長、大本・加賀副会長、遠藤・大島監事、佐藤事務局長、横山教頭が参加。

第3回全役員会の様子

活躍する卒業生

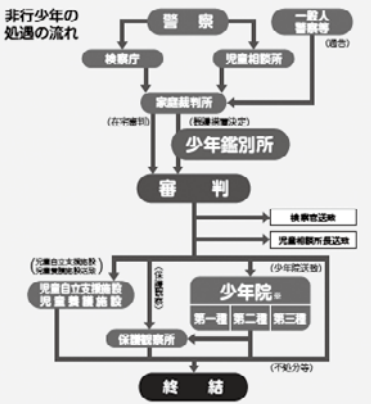
少年に寄り添い、理解する仕事

服部　真人（高57回）

当時の法務省矯正局の採用担当者から言われた言葉は今でも忘れていません。少年に寄り添い、理解する仕事。鑑別技官（心理技官）という職種は、まさにこの一言に尽きると思います。普段あまり注目される分野ではありませんが、この仕事に誇りとやりがい、自信を持って日々自己研さんに励んでいます。

さて、「鑑別技官」という仕事はおそらくほとんどの方がご存じないと思うので、この場を借りて紹介します。鑑別技官は、幅広い「心理学」という分野の中でもいわゆる「非行・犯罪心理」の専門家です。法務省所管の少年鑑別所（家庭裁判所の求めに応じ、非行のある少年を収容し、審判までの準備を整えさせる機関）等の施設に属し、非行のある少年に対して、再非行防止の観点から「鑑別」という手続を実施します。やや堅苦しい説明ですが、この「鑑別」という作業は、医学や心理学、教育学、社会学等の専門的知識・技術を用いて、少年の非行に影響を及ぼした事情を資質面・環境面から明らかにすることです。そして、その事情を改善するために適切な方針を示すことが目的となります。つまり、「どんな人で、なぜ非行をしたのか」などと、その少年の人となりを捉え、科学的に非行のメカニズムを読み解き、その結果を教育担当者に引き継ぐということになります。友人らにこういう話をすると、「非行少年を叱りつけるんじゃないの？」などと言われることがありますが、決してそんな一方的なものではありません。実際は、対象の少年に対して面接や心理検査、行動観察等を実施し、複数の視点や根拠から知能や性格等の特徴を把握していきます。せっかくなので、架空のケースを簡単に「鑑別」してみたいと思います。

中3のA君は、仲の良かった後輩B君に対する傷害事件を起こし、少年鑑別所に入ってきました。事件の経緯を聞くと、B君が何人かの友達の前でA君のことを馬鹿にしたようで、それに腹を立てたA君がB君を殴りつけたとのことです。B君は必死に謝っていたようですが、それでもA君の暴力は止まらず、とうとう大きな傷害事件になってしまいました。では、A君はなぜそこまで立腹し、自分でも止められないほどに興奮した状態に



陥ったのでしょうか。「異常」だから？「これまでの親の育て方に問題があった」から？どちらもとても乱暴な捉え方のように思います。

彼には年の離れた品行方正、成績優秀な弟がいたようで、親からちやほやされている弟を見ては、ふがいない自分への情けなさと、努力を続けなければ周囲に認めてもらえない不安、寂しさ等を募らせていたようです。何とかして親に失望されまいとする必死さと、努力しても伸び悩むことへの焦り、ありのままを誰かに受け入れてもらいたいという思い等に挟まれ、彼はぎりぎりの状態で生活していたのかもしれません。風船のように張り詰めていた内面に、些細なB君の言葉が針となり、もしかしたらB君の言動によって、触れられたくない弱い自分を見透かされたように感じたのかもしれません。こう考えると、強い自分を誇示すると同時に突発的な怒りの発散に陥ったことが一つの仮説になります。このように、面接を進める過程では、A君の心のうちを聞き取り読み取り、「もしかしてこういう思いだったのかな？」などと本人自身も言葉にできない部分があればそこに迫っていきます。今は本件当時の心の動きに着目しましたが、B君との普段の関係性や、周囲の友達の視線、本人自身の能力・性格傾向、精神医学的な問題の有無等、いくつかの仮説を検証しながら進めていきます。大雑把ではありますが、これが「鑑別」です。

ここまで少年鑑別所のあれこれを話しておきながら、実のところ現職は少年鑑別所ではありません。現在は、管内の少年鑑別所の指導・監督等を行う部署に所属しており、少年矯正に関する企画・立案を主とした業務を行っています。現場施設で勤務していたときには、目の前の少年に向き合うことに精一杯でしたが、少年矯正全体の動きや関係法規を把握することが求められるため、非行臨床に関する知見だけでなく、多様な視点から行政課題を捉えられるようになってきたと感じています。非行臨床を専門とする職種でありながらも、こうした様々な業務に携わり、幅広く専門性を向上させられることが、この仕事の魅力でもあります。

大学当時、恩師の影響もあって、「非行のあった少年の悩みやつらさに寄り添い、前を向いて生きるための一助となりたい。」という思いを強め、この仕事を選ぶに至りました。少年の気持ちをうまく酌み取れない場面など、困難に直面し対応に苦慮したときには力不足を感じますが、多くの出会いの中で、やりがい、充実感を得られる体験がとても多いです。今後とも入省当時の思いを忘れることなく、一生懸命に職務に励みたいと思っています。

略歴

H21年3月	筑波大学人間学類心理専攻卒業
H23年3月	筑波大学大学院人間総合科学研究科修了
同年4月	国家公務員Ⅰ種試験（人間科学）採用　法務省矯正局入省
H24年4月	東京少年鑑別所　勤務
H26年4月	札幌少年鑑別所　専門官
H27年4月	札幌刑務所　調査専門官
	川越少年刑務所　調査専門官
H28年4月	東京矯正管区　少年矯正第二課

メタセコイア

夏の自由研究で快挙！

夏の自由研究宿題で「雨活アイデアコンテスト２０１６」に出品した中３細井里桂子さんの研究「マツダスタジアムの意外な一面」が作文部門で最優秀賞を受賞しました。細井さんは、マツダスタジアムの地下貯水池で貯められた水が、様々な場所で再利用され、浸水被害も防いでいる事実を調べました。表彰式は東京スカイツリーにて行われたそうです。

「マツダスタジアムが画期的な建物だということが分かり、この研究を通じて環境に良いものをこれからも作っていくことが大切だと思いました」と語る細井さん。

今後の活躍に期待しています。

第八十回岡山県児童生徒発明くふう展で、中１原田珠希さんの研究「もたずにぬれずにＵｍｂｒｅｌｌａ」が、岡山県知事賞を受賞しました。

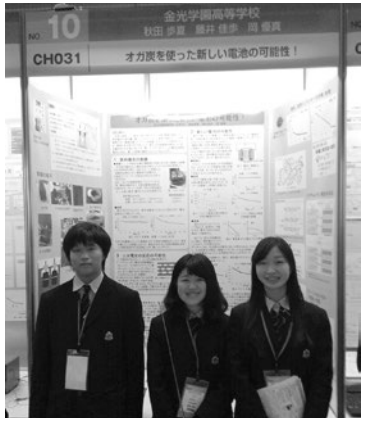
「雨の中、弟を保育園に送り迎えするお母さんを見て、車の乗り降りが大変そうだな、と思ったのが発明のきっかけです」と語る原田さん。両手が使えるように、車のドアに磁石で傘を取り付けるようにする際、糸の長さなどを調節するのが大変だったそうです。

今後の活躍に期待しています。

探求Ⅱ化学ゼミ　全国上位30本のうちの一つに選ばれる

12月10日に日本科学未来館で行われた「ＪＳＥＣ高校生科学技術チャレンジ・最終審査」にて高２秋田歩夏さん・藤井佳歩さん・岡優真くんの研究「オガ炭を使った新しい電池の可能性！」が優等賞を受賞しました。

「はじめて大きな大会に参加して、東工大など有名大学の先生方に、様々な指摘やアドバイスをいただきとても勉強になりました。同年代のレベルの高い研究も見ることができていい刺激になり、力や



度胸がついて本当に良い経験になりました」と語る３人の今後の活躍に期待しています。

探求Ⅱ教育ゼミ

12月17日に中国学園大学で行われた「第３回高校生プレゼンテーション・コンテスト」で、高２植田七菜子さんがラオスに住む民族の教育について研究した'Laos education for Preliterate'が佳作を受賞しました。

「多くの人に研究を知ってもらえてとても嬉しいです。さらにプレゼン力を鍛え、これからも頑張ります」と語る植田さんの今後の活躍に期待しています。

永瀬清子賞　中学生の部第１位

第14回永瀬清子賞（赤磐市教育委員会主催）に出品した中２三宅茜さんの作品『あかねちゃんと三宅さん』が234点の応募があった中学生の部では第１位にあたる優秀賞を受賞した。

「この作品は、私が自分の名前を気に入っていて使おうと思ったことがきっかけで出来ました」と語る三宅さん。

受賞の知らせを聞いた時は驚きとともに、「分かりやすい言葉で自分の思いを表現できていたか？」と心配もしたそうです。今後の皆さんの活躍に期待しています。

ダイバーシティ教育推進学校賞受賞

12月10日に、岡山県・岡山経済同友会・岡山大学が主催する「ダイバーシティ推進実行委員会おかやま」から、金光学園高等学校が学校賞を受賞しました。

これは、高校１年生のＳＨ基礎の授業で行った取り組みで、高１池田弦輝くん・這禽彩香さん・荒島美音さん・飛田さつきさんの論文が入賞した結果、贈られた賞です。

「今回、自分の作品が入賞したことに驚きと嬉しさを同時に感じてします。今回頂けた賞を日々の励みにしてこれからも頑張っていこうと思います」と語る池田くん。今後の皆さんの活躍にしています。

活躍おめでとう

《高校ラグビー部》

「意識」とこれから

高1　甲斐　准輝

僕は、12月中旬に行われたU-16中国5県対抗戦に岡山県代表として参加させていただきました。

僕がこの大会で感じたことは、「意識」の違い、「レベル」の違いです。各県の代表が集まるこの場では、これまでとはまったく違うレベルの高いラグビーを体験することができました。そして、それを支えているのは選手一人ひとりの真剣さなのだと気づきました。

これから先、自分のプレーの質、レベルを高めていくには、何よりもまず日々の練習に対する意識を変える必要があります。試合を意識して本気で練習することで、大会で出会った中国各県の代表に近づきたいと思います。チームメートと競い合い、高め合いながら、更なる努力を重ね、チームとしても個人としても成長して、ますます活躍できるよう頑張ります。

《高校卓球部》

第44回全国高等学校選抜卓球大会中国地区予選会を終えて

高2　中務　きらら

私達は2月3～5日に鳥取県のコカ・コーラウエストスポーツパーク県民体育館で開催された第44回全国高等学校選抜卓球大会中国地区予選会に出場しました。予選リーグで鳥取西高校には勝ちましたが、岩国商業高校に負け、決勝リーグに進むことはできませんでした。

しかし、中国大会で1勝できたことは私達にとって、とても大きなことだと思いました。それと同時に大会を通してそれぞれの課題を見つけ、現時点での自分の実力を知り、もっと強くなりたいと思いました。夏の中国大会では今回の大会の悔しさをバネに1勝でも多くできるように日々努力していきたいと思います。

《中学バレーボール部》

中3の市川翔太くん、川口大城くん、都道府県対抗中学バレーボール大会で3位に

中3　市川　翔太

12月25日～28日に大阪府中央体育館で開催された全国都道府県対抗中学バレーボール大会に出場しました。岡山県代表は予選1回戦目で茨城県と対戦し、セットカウント1―2で負けてしまいました。しかし、予選2回戦で愛媛県と対戦し、セットカウント2―0で勝利し、次の日に行われる決勝トーナメントにつなぎました。決勝トーナメント1回戦は兵庫県と対戦し、セットカウント2―0で勝利しました。2回戦は長崎県と対戦し、2―1で勝利し、続く3回戦も沖縄県と対戦し、2―1で勝利しました。次勝てば歴代最高というところで最後熊本県に0―2で負けてしまい結果は3位で終わりました。これまで、支えてくださった色々な方々、保護者の方や監督の先生方への感謝の気持ちを忘れずこの経験を生かして今後の色々なことに取り組みたいと思う。

中2　上田　颯大

僕たち男子バレーボール部は2月4・5日に山口県岩国市で行われた第13回中国バレーボール新人大会に出場しました。

予選1回戦の相手は島根県代表の松江第一中学校です。僕らは少し緊張感を持ち、挑みましたが相手のペースに乗せられストレートで負けてしまいました。続く2回戦の相手は山口県代表大嶺中学校です。絶対に負けないという気持ちで2回戦はストレート勝ちしました。2日目の決勝リーグでは、優勝候補の広島県代表の井口中学校です。僕達はチャレンジ精神で必ず勝つぞという気持ちで試合に臨みました。結果は惜しくも負けてしまいましたが、このチームには良い経験となりました。

ベスト8となってしまいましたが、期待に応えられるよう日々精進していきますので応援よろしくお願いします。ありがとうございました。

JOC選抜の練習会にバレーボール部中1的野　陽くん、櫛間　大輔くんが参加

中1　櫛間　大輔

僕はJOCの選抜の練習会に、今参加させていただいています。その中で、僕は1年なので、他の中学校から選出されている選手とも一緒に練習します。そうすると、今まではチーム内でどこを守るとか範囲が基本的には決まっていましたが、それが何一つ決まっていません。だから、声を出してコミュニケーションをしないといけないので、とても声を出すことを重要視しています。また、他の選手の良い部分を見つけ、それを取り入れて、練習会で培った技術や、コミュニケーション能力を日頃の練習からできるようにしたいです。また、他の人にも教えられるようにしっかりとプレーを理解し、できるようにしたいです。

《中学バスケットボール部》

ブロックエンデバーに参加して

中1　富田　直斗

ぼくは、U-13ブロックエンデバーの選考会に行ってとてもいい経験をしました。今、日本が目標としてやろうとしていることを知れたり、中国5県の同級生と一緒にバスケができてよかったです。各県のしていることのちがいや特徴が見られたり、日本全体が統一してしようとしていることを知れて、バスケットボールという競技でも様々な観点があり、目的が一つではないということがわかりました。今、練習でやっていることと反対のことなどもありましたが、一つの観点にしぼらないよう、どのようなことも自分の技にしたいと思いました。このようなとてもよい経験ができたのは、今まで

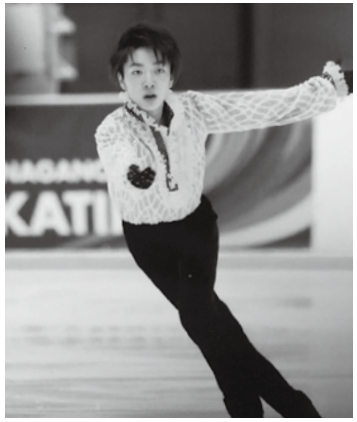
教えてくれた先生のおかげだとおもいます。これからも様々な人が助けてくれていることを忘れず、練習や試合をもっとがんばっていきたいです。

《フィギュアスケート》

悲願の全中優勝！

中3　木科　雄登

2月3日から7日まで長野ビッグハットで全国中学校スケート大会が行われました。今年はこの長野で行われるこの大会も最後。1年生で6位、2年生で4位だったので、表彰台には上がりたいと思い、長野の地へ出かけました。前日練習では最悪の調子。1週間前の国体でも同じリンクで3位に入っていたので、自分を信じ、やってきた練習を信じてショートプログラムの日を迎えました。6分間の練習でも思うほど調子は上がりませんでしたが、本番ではノーミスで2位となりました。次の日のフリー、順位は気にせず、前日と同じ気持ちで臨みました。それが良かったのか、表彰台の一番高いところへ上がることができました。思わず涙が出ました。本当にうれしかったです。この優勝で色々な方々に助けられて今ここにいられることも再確認でき、本当に良い中学校最後の試合になりました。たくさんの応援ありがとうございました。



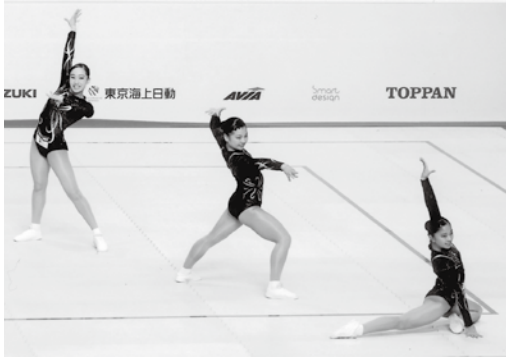
《中学スポーツエアロビック》

全日本エアロビック選手権に中2中谷さん出場！

昨年11月6日に東京で開催されたスズキジャパンカップ2016に中2中谷祈粋さんが出場しました。

「演技をする前、とても緊張していました。私は技を失敗してしまうのが一番怖く、泣きそうになりました。でも、他の2人が『大丈夫、大丈夫、絶対いける』と言ってくれたので、緊張感も少しほぐれました。そして、演技が始まり、技を失敗することもなく踊り終わりました。その後すぐ泣いてしまいました。結果が出てもっと泣いてしまい、3人で『頑張ったね』とハグをしました。表彰台には乗れませんでしたが、本当に良かったと思います』と語る中谷さん。

今後の活躍に期待しています。



JOCに出場して

中2　中谷　祈粋

私は、1月29日に行われたエアロビックの全国大会に出場しました。前回11月に行われたJAPAN CUPでは表彰台にのれなかったのが悔しかったので全国大会に向けて3人で力一を合わせて練習を頑張ってきました。

大会当日、とても緊張していました。「技を失敗してしまったらどうしよう」という不安もありました。自分たちの演技の番がきたときに、3人で円陣を組んでからステージに行きました。「絶対にメダルをとる！」という気持ちを持って演技をしました。

結果は3位で納得いく順位ではなかったけど、3人と組んで一番いい演技ができたなと思いました。今年もまた全国大会に出場して世界大会を目指して頑張っていきたいです。

《高校スキー》

第66回全国高等学校スキー大会に出場して

高2　西川　華

私は2月に群馬県片品村で行われた第66回全国高等学校スキー大会に大回転、回転の2種目で出場しました。昨年は私にとって初めての全国大会ということもあり、緊張と不安で押しつぶされそうになりましたが、今年は全国大会独特の雰囲気を楽しみながらレースに臨むことができました。結果は大回転90位、回転83位。まだまだ全国のトップ選手と良い勝負ができるわけではないということを痛感すると同時に、昨年よりトップ選手との差が大幅に縮まり、納得できる結果にもなりました。今後も国体、高校選抜と大きな大会が続くので、今回の結果に一喜一憂することなく、支えてくださっている方々への感謝を胸に全力で練習に取り組んでいきます。最後になりましたが、今回引率して下さった中原先生、本当にありがとうございました。

《高校将棋部》

第25回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に出場して

高2　原田　理司

12月に行なわれた第15回中国地区高等学校将棋選手権大会と2月に行われた第25回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に出場しました。初めて県外の大会に出場することになり、挑戦する気持ちをもって迎えた中国大会では3勝2敗で勝ち越すことができ、少し自信がついたのと同時に負けた相手との力の差を思い知らされました。全国大会では、予選リーグで1勝3敗で決勝トーナメントに進むことさえできず、今も悔しいです。しかしこの大会で、全国大会の雰囲気を感じることと選手たちの強さを知ることができたのは、大きな収穫になりました。次の目標は県大会で優勝して、全国での自分の力を出しきることです。

最後になりますが、僕を支えてくださっ

た家族、先生、友人とその他の関係者の方々にお礼を言わせていただきます。ありがとうございました。

《高校放送部》

「第2回中国地区高校放送コンテストならびに校内放送活動研究集会広島大会」に参加して

高1　岡本　圭織

私は1月29日から30日にかけて広島市青少年センターで開催された第2回中国地区高校放送コンテストに参加しました。

この大会に向けて多くの先生方に朗読を聴いてもらい、それぞれ意見を頂きました。これまで発声練習も毎日するよう心掛け練習を重ねてきました。

当日は中国5県から多くの高校生が集いました。参加した高校生はそれぞれの持ち味を生かしたアナウンスや朗読をしているのを聴きとても勉強になりました。

また、この大会では、他県の高校生とも交流ができました。一緒に昼食を食べたり練習をしたりしてその交流はとても楽しく有意義なものになりました。

決勝進出はなりませんでしたが、このコンテストから学んだものも多くあり、今回学んだ事を次のNHK杯コンテストにぜひ生かせるよう頑張っていきます。

《高校書道部》

受賞を振り返って

高1　坂口　小枝

今年は昨年の奨励賞を越える「全国競書大会委員長賞」を受賞することができました。昨年の受賞の際に、さらなる高みを目指すと決めたことで書道への姿勢が変わった1年となりました。

まず練習する量です。圧倒的に書道をする時間が増えました。ただたくさん書くのではなく、どうしたら良い作品になるのか1枚1枚意識しながら書くようになりました。その結果、自分の作品の良いところと悪いところを見極めることが出来るようになり、他の方々の作品を鑑賞する際にも、今まで分からなかった作品の良い部分が理解できるようになってきました。

今年は留学生と交流する機会が多かったおかげで、多くの方に「書道」を知ってもらうことができました。日々練習している書道で国際交流を果たせることに喜びを感じました。「書道」の文化に初めて触れる方には新鮮だったらしく、よい驚きをもって書道体験をしていただきました。私にとってもこの貴重な経験が将来の糧になると感じています。

これからは大会で入賞するだけにとどまらず、社会貢献にも生かしていきたいと思います。

中2学年集会　2月16日（木）

修学旅行事前学習「チュラ海～沖縄の宝～」

実行委員を務めてよかった

1組　梶谷　悠

今回観た『GAMA～月桃の花～』は、以前に観た『ひめゆりの塔』よりもリアルな描写や実際の映像が多く、正直なところ、途中で『観たくないな』と思った。しかし、沖縄戦についてきちんと知っておかなければならないと思い、がんばって最後まで観た。一番悲しくなったのは、足をけがしたおばあちゃんを置いてゆかなければならないシーンだ。置いて逃げなければならない家族は、耐えがたいほどつらく、やり切れない思いでいっぱいだろうと考えると、胸が苦しくなった。ガマの中では、日本軍が沖縄に住む一般人を皆殺しにしようとする場面もあり、極限状態では、仲間を殺すほど追いつめられていたのだと分かった。映画を観て、沖縄戦のむごさを改めて知ることができた。

学年集会のクラスの出し物では、劇などはなしでプレゼンのみだったが、その分、内容を充実させて、「戦争」という重いテーマについてしっかり説明できたと思う。他のクラスの出し物も、面白かったり、工夫がされていたりして、楽しく見ることができた。難しいテーマでも、うまく劇にしているクラスもあって、すごいなあと思った。

今回の学年集会では実行委員を務めた。準備や仕事は思っていたよりも大変だったが、無事に成功したことが嬉しかった。実行委員同士で仲良くなることができ、委員を務めてよかったと思った。あと2カ月ほどで沖縄修学旅行だが、色々なことを学び、体験し、楽しんで、最高の修学旅行にしたいと思う。

本当の戦争を知ることができた

2組　坂本　莉来

学年集会を終えて、たくさんのことを学んだと感じている。修学旅行の事前学習として、夏休みに『ひめゆりの沖縄戦』という本を読み、『ひめゆりの塔』と『GAMA～月桃の花～』という2本の映画を観た。正直なところ、最初は『戦争がどのようなものかなんて、すでに習って知っているのに、何でわざわざまた学ぶのだろう』と事前学習に疑問を持っていた。いざ本を読んだり映画を観たりすると、『これは知らない、あれも知らない』と知らなかったことばかりで、

学習してよかったと思った。知らないことがあるのに、戦争を知ったつもりで沖縄へ行っていたかもしれないと考えると、申し訳ない気持ちになる。それくらい戦争というものに無知だった僕も、本1冊と映画2本の学習で、本当の戦争というものを知れたと思う。

僕は、『自分が戦争を体験したら生き抜けるだろうか』と考えるようになった。今は好きなことができていて、全く死の恐怖のない生活に慣れているため、僕が戦争中の生活を体験したら、耐えきれないと思う。おそらく、現代の誰もが耐えることができないだろう。食料も水もない生と死の境を生きるということは、並の精神力では耐えられないし、つらいと思う。そう考えると、昔の人はすごかったんだなと思った。

戦争はしてはいけないことで、恐ろしいものだということを忘れずに、4月の修学旅行に臨み、しっかりと学んできたいと思う。

学年集会で学んだこと

3組　田中　健太

学年集会を迎えるまでは、劇はどうなるのか、映画はどのような内容なのかなど、色々と考えていた。映画は、以前に観たものと同じように、観るに堪えないような内容だと思った。予想通り、映画の中では、逃げる最中に射撃などによって息絶えた人たち、腕を無くした子どもたち、また、実際の映像など様々なものがあった。僕たちは、映画で観ているのでなんとか耐えられるが、実際は臭いなどがあって、もっともっとひどい光景が広がっていたと考えると、とても恐ろしくなった。実際にこの戦争を体験した人たちは少なくなってきているが、生きている方々の話が少しでも世界平和に繋がることを信じている。

クラスの劇では、自分の作ったパワーポイントを使った。実際にキャストとして出演することにもとても緊張していた。しかも、三線を弾くということもあったので、より一層緊張していた。本番では多少のミスはしたものの、無事終えることができたのでよかった。この学年集会で見た発表や映画などを、修学旅行に行くときのために覚えておこうと思った。

大きな達成感でいっぱい

4組　笠原　麻由

生徒会長選挙が終わると、早々に学年集会の活動が始まった。実行委員長であった私は、少ない準備期間に焦っていた。一方、クラスの出し物でも中心として動くことになり、こちらも練習時間は少なかった。4組は劇をする予定だったが、私は監督をすることになった。こうして、実行委員長と監督の2つの仕事を持ち、忙しい日々を送っていた。

実行委員会では、垂れ幕とパワーポイントのスライド作成に追われていた。委員会で集まっても、皆それぞれの仕事で忙しく、自分のことに精一杯。でも、一人一人が一生懸命に取り組んでいるように見えた。だから、私も皆に負けないよう頑張ろうと思い、家でも時間を作り、全力を尽くした。そして、前日に何とか2つとも終わらせることができた。

クラスの劇の練習では、いくつもの壁を乗り越える必要があった。まずは、実行委員との両立。どちらも活動するのは放課後だったので、行ったり来たりで大変だった。次にキャストをまとめることだ。放課後の練習であるため、部活に行きたい人などが参加しないことがあった。また、指示が通らないことも多々あった。そのため、いら立って怒鳴ってしまうこともあったが、本番では4組らしい劇を完成させることができ、今ではいい思い出になったと思っている。

同じ時期に、2つも役を引き受けて忙しくなるのは当たり前。自分から引き受けたのだから自業自得。そう思う人がいるかもしれない。

でも、私はこれをいい経験だと思っている。2つの仕事に全力を尽くし、最高の劇、学年集会をつくりあげたのだ。私は今、とても大きな達成感でいっぱいだ。この学年集会を通して、改めて、何事にも全力で取り組むことの大切さを学んだ。来年度、私は生徒会長として、たくさんの仕事に取り組むことになるだろう。困った時は、今回学んだことを思い出し、また達成感を得られるように頑張っていきたい。

今を大切に生きる

5組　尾形　実咲

学年集会は、戦争の悲惨さや命の大切さを改めて感じた、学ぶことの多い会だった。まず、『GAMA～月桃の花～』という映画を観た。家族が一人一人、目の前で戦争に巻き込まれて死んでいく。逃げようとしても、空からは敵の銃弾が、地面にはたくさんの死体が。赤ちゃんの泣き声は、敵に見つかるかもしれないから、泣くことをやめさせようと強く抱きしめて殺してしまう。戦争で邪魔な人がいたらすぐに殺そうとする。国のために敵に捕らわれるよりは、自決する方がマシ。今では考えられないようなことが、約70年前に本当に起こった事実だと思うと、少し身近なことのようにも感じられ、とても怖くてつらい思いでいっぱいになった。映画には、直視できずに思わず目を背けてしまう、むごい場面もたくさんあり、戦争の悲惨さが伝わった。『人間がすることではない』と改めて感じ、戦争は、こんなにも人の心まで変えてしまうものなのだと恐ろしくなった。でも、この戦争がなかったら、今の平和な生活は存在しなかったのかもしれない。そう思うと、私たちはこの戦争のことを理解する責任があり、今の生活を大切に生きていかなければならないと思った。

クラスの出し物では、5組は「自然・地理」というテーマで発表の間に寸劇を入れながら頑張った。他のクラスの発表もとても面白くて、工夫されていて楽しかった。この学年集会で学んだことを修学旅行でも活かし、楽しみたい。

AFS留学生紹介

日本金光学園は第二のふるさと

インドネシア ナディアヒア

勉強、授業―漢字は難しい！

私は来たばかりの時、日本語が全く分かりませんでした。授業は当然全然わからなかったです。本当に困りました。日本には3種類文字があります。

カタカナ、ひらがなと漢字でした。なかでも、私は漢字が一番難しかったです。毎日毎日、百字帳に練習しました。だんだん漢字もわかってきました。

日本語の勉強で一番役に立ったのは、みんなとおしゃべりをすることでした。間違うことを気にしたら言葉は上達しないと思います。私は片言の日本語で一生懸命言いたいことを伝えようとしました。友達は私の間違いをいつも丁寧に直してくれました。だんだん日本語が分かってきた時、私のお話し好きが戻ってきて、おしゃべりがとても楽しくなりました。日本語の助詞はとても難しかったです。

もう一つ日本語が上達した理由は、日本語の検定に合格する目標をもったことです。私は中級のN3を目指しました。（注）合格しました！）これは1年間で合格するには高い目標でした。検定合格を目ざしたことは、上達するのに大変役に立ったと思います。

インドネシアで

部活―日本の伝統文化

金光学園ではいろんな部活を経験しました。コーラスや書道や茶道、華道など。

コーラス部では日本の歌を歌うだけでなく、言葉や方言も勉強になりました。いろんな所に行ったり、ダンスしたり、サマーコンサートのステージに参加したことはとても強く印象に残っています。友達と力を合わせてコンサートを成功させました。友達もたくさんできました。

書道では、漢字を筆で書くのはとても大変でしたが、楽しかったです。書道は心をこめて美を表現する事だと思いました。茶道も心を豊かにする日本のよい文化だと思いました。

ほつま祭、体育会―最高の思い出

1年4組の人達と一緒に英語や数学などの授業を受けました。感想は日本の先生はとても優しいです・・・生徒が寝ていても怒らない?!

文化祭や体育会、球技大会などでは友

ほつま祭

体育会

達がたくさんできました。

文化祭は2日間ありました。準備には1カ月もかかりました。4組のテーマは「LIVE、LAUGH、LOVE、世界は一つ」です。世界中の旗や民族衣装や、日常品など集めて展示しました。皆でインドネシアのことを調べてポスターを作りました。私の教室1年4組はとてもカラフル、本当にすごいと思いました。結果はグランプリになり、とてもうれしかったです。

私はインドネシアから持ってきた民族衣装を着ました。皆で写真をいっぱい取りました。良い思い出になりました。

最後の日は私のステージは2回ありました。1回目は部活のステージ、コーラスで「夏の歌」を歌いました。2回目はKOP [King Of Performance] でした。このステージは有志の出場でした。皆、ダンス、歌、フリースタイルなどの独自のパフォーマンスを示しています。

私は友達と2人で「ひまわりの約束」を歌いました。私はインドネシア語と日本語のバージョンで歌い、友達はギターを弾きました。本当に楽しかったです。

体育会では様々の面白いスポーツを経験しました。雨が降ったけれど皆のテンションは盛り上がりました。最後の試合まで面白かったです。

四季っていいね！

日本で初めて季節を体験しました。春の入学式では桜がとてもきれいでした。日本の夏はとても蒸し暑く、ちょっと過ごしにくかったけど、初めて浴衣を着て、友達と天領祭りに行ったのは楽しい思い出です。大阪と広島にも行きました。

桜の下で

秋には学校の活動が一杯ありました。山の紅葉は、絵の具で塗ったような赤や黄色で、とてもきれいでした。

どうしても見たかった雪を帰る直前の1月に見ることができ、感激でした。

四季がある日本は景色がきれいなだけでなく、季節の食べ物がとてもたくさんあり最高でした。特に桜餅は大好物です。

第二のふるさと日本―さようなら

私は日本に住むことに慣れたので、帰るのはちょっとさみしいと思いました。

私がここにいる間に与えられた全てのサポートに感謝したいです。多くの人に助けられて、私は成長することができました。日本人はとても親切でした。感謝の気持ちでいっぱいです。

日本は私の第二の故郷です！

ボッケエー好きです！

生徒入賞作品

▼第62回青少年読書感想文 岡山県コンクール 中学校の部　自由図書入選

『ひとりではじめたアフリカボランティア』を読んで

中3　永原　凜弥

多くの本の中で僕はこの本に目が止まってしまった。「ひとりでボランティア」という題はよく目にするが、渋谷ギャル店員がボランティアなんて見たこともなかった。ギャルはいつも遊んでいて真面目ではなく、社会への関心など持たないと思っていた。しかし、そのギャルが一人でボランティアという見出しに、僕の中で「ギャル」という人達に対する考え方が変わってきた。

さやかさんは24歳の時、生きることについて考えだし、分からなくなってしまったことがある。僕は今、家族や友達と楽しく人生を送っているが、いつか同じようなことを考える時がくるのかと思うと怖い。僕は興味を持ったことはずっと考え込んでしまうので、同じように分からなくなってしまいそうだからだ。そこでさやかさんは、日本の暮らしから少し離れた。結果的にその経験を将来につなげることができた。興味あることに思いきって挑戦し、そこからやりがいや生きがいが見つけられたなら、幸せなことだと思う。

ギャル店員からアフリカボランティアをするまでの背景には色々なきっかけがあったと思う。その中でも親友の死が一番大きなきっかけだったに違いない。最近ニュースでよく死亡事件が流れるが、僕にとってはどこか別世界の「悲しい」事件で終わってしまう。しかし、もし身近な人が亡くなったら「悲しい」だけでは終われないと思う。心に大きな穴が空いてしまうだろう。その大きな穴をうめるために、さやかさんは海外に出たのだと思った。

僕もさやかさんと同じく、今まで「今の日本に生まれてよかった」などと感じたことは一度もない。毎日の食事や電気、きれいな水など僕にとってどれも当たり前だと思っていた。父に「凜弥は恵まれとるなぁ」とよく言われるが、何が恵まれているのか考えたこともなかった。しかし、この本を読み進めるうちに、発展途上国では毎日の食事などが安定しているという環境はなかなかないと知った。日本では中学まで義務教育だ。教育を受ける権利を持っている。しかし、国や地域によっては、その権利が保障されていなかったり、権利はあっても生きるために働かざるを得なかったりする子供もいる。病気になっても治療さえ受けられないことなど、かわいそうとさえ考えたことがなかった。水があり、食事があり、毎日を健康に暮らせることは、日本では当たり前でもその当たり前を有する国は地球上では決して多くないのだ。今の生活がそうではないことを忘れてはいけないと思った。

さやかさんは、体験したことの中で、多くの人の死についても述べている。僕はなぜ人がすぐに亡くなってしまうのか不思議だった。それほど今の僕の生活と「死」とは無縁だからだ。今は戦争もしていないのに、なぜお金がないのか、なぜ勉強をしたくてもできないのか、受けるべき治療が受けられないのか、など多くの疑問が残った。日本では考えられないような悲惨な状況がアフリカでは日常的に起きているという現実、またその事実を知らなかった自分に対して僕は悲しい気持ちになった。一方で、物資は豊かでも悲しい事件の多い日本と、貧しくても笑顔あふれるアフリカとではどちらが今日を生きる人々にとって幸せなのか。アフリカの方が今後の将来が明るくなるような気さえした。ただ、さやかさんも言うように、貧困のために死の選択しかできない人々がいるという不公平な世界の実態を思い知らされた。その実態を目の当たりにしながらもさやかさんは「勇気」と「度胸」で接した。学校でもエイズはとても恐ろしいウイルスだと習っている。それを普通の病気と感じて一生懸命治療に当たれる事に、常識や概念にとらわれない、強い信念を感じた。

また、残りの人生を困っている人達に捧げるなどということは、僕にはできない。まして、女性が一人で渡航し、協会を設立するというのは、とてもすごいことだと思った。さらに、言葉も通じない地域で、子供達全員の戸籍を取ったり、学びたい人が学べる場を設けたりもした。その功績も勿論立派だと思うが、それ以上にこれらを実現させるには、現地の人々との信頼関係が不可欠だっただろうと思うと、さやかさんの人柄と努力に感服する。

最後に、僕はこの本を読んで、僕も将来、困っている人達を支えられる仕事をしたいという思いが強まった。そして、アフリカなど発展途上国においては、僕が持っていた今までの価値観や想像とは全く違う現実があることも知った。また、たった一人の女性が危険を省みることなく行動したことで、社会を大きく変えられたことも確信した。先進国といわれる日本に生まれ育つ僕がこれから目指すべきものとは何か。その答えを模索しつつ、恵まれた環境を無駄にしない生き方をしたいと思う。

『ちいさなちいさなベビー服』を読んで

中1　祢屋　希

この本と出会ったのは学校の図書館です。図書館だよりで紹介されていて、興味を持ったことがきっかけでした。「ちいさなちいさなベビー服」というタイトルの「ちいさなちいさな」という部分が少し気になって、読み始めました。読み進めているうちに、とても悲しい気持ちや、痛い気持ち、つらい気持ち、感謝の気持ちなど、色々な感情がこみあげてきて一回目は複雑な気持ちで読み終えました。

この本に書いてあることは、自分が知らないことばかりで、戸惑いながら何回も何回も読み直しました。この本は物語ではありません。岡山県にある倉敷中央病院で実際に行われているボランティア活動について書いてあります。

世の中には、とても高い確率で、小さい赤ちゃんが生まれているそうです。そして、小さい赤ちゃんの中には沢山のお祝いの言葉をかけられたり、多くの人からの沢山の愛情を受ける間もなく亡くなってしまう赤ちゃんもいるそうです。この本はそんなちいさな赤ちゃんに着せてあげるベビー服を作ってくれているボランティア「グリーンはあと」の方々の活動についての本です。

「グリーンはあと」の活動が始まるまでは、生後間もなく亡くなった赤ちゃんを包んであげるものがなくて、ご遺体をお菓子の空き箱に入れて、退院されるお母さんも居たそうです。お店に売られている新生児用の服では体の大きさが全く合わない程ちいさい体だと書いてありました。私は、お店でベビー服を見ると、「ちっ

さいなぁ」と思っていましたが、それが大きすぎるなんて想像できない大きさだなぁと思いました。

「グリーンはあと」の方々は、亡くなった赤ちゃんに着せてあげるのに、「肌触りの良い生地がいいね」とか、「ぬい目が肌に当たってゴロゴロしないように」とか、まるで生きている人に接するように、気持ちを考えてあげて、さらに最近ではおくるみや、ちいさな人形まで作ってあげているそうです。

かわいい赤ちゃんと過ごす日々を楽しみに、頑張って出産したお母さんにとって、亡くなった赤ちゃんを抱いて退院することがどれだけ辛いか、想像するだけでもとても悲しいです。そんなお母さんの気持ちを少しでも楽にしてあげたいという思いが、優しくてすばらしいなと思いました。辛い人に寄り添う気持ちや、どうしてほしいだろうと考える想像力を、持った大人に私はなりたいです。

私自身も母のお腹にいたのは7ヵ月で、早産だったそうです。生まれた時は、片手に乗る位の大きさで、978グラムしかなく、両親は毎日がとても不安だったそうです。

「明日もこの子に会えますように」

という希望を込めて、「希―のぞみ」という名前をつけてくれたと聞きました。母はいつも、「人間が普通に産まれて、成長できるのは、当然じゃない。奇跡なんだよ」と言っていました。私は毎回「ふーん」と、半分聞き流していましたが、この本を読んで改めてその言葉の意味を考えると、少し理解できたような気がします。

私は今まで、とても軽い気持ちで出産について考えていたなぁと思いました。妊娠したら、10ヵ月お腹に居て当たり前。３０００グラム前後で産まれてきて当たり前。育児書や母子手帳に書いてあるように成長して当たり前。でも、これらはすべて本当に奇跡なんだなぁと思いました。

母は国立病院のＮＩＣＵに入院している私に毎日会いに来てくれたそうです。

「その時には、いろんな症状の子供たちがおったんよ。500グラムぐらいで産まれた赤ちゃんもおったし、体は大きいけど全然動けん赤ちゃんもおった。本当はきっと、不安で、辛かったじゃろうけど、どのお母さんも、一生懸命笑っとったなぁ。よく産まれてきてくれたなぁって感謝して、赤ちゃんと向き合っとったように見えたなぁ」と言っていました。

母は、「育児は分からんことばっかりじゃけど、『お母さん』になれたからこそ分かったことも沢山あるし、幸せも沢山あるんよ。あんたもいつか、『お母さん』になれたら良いね！」と言ってくれました。

私はこの本と出会えて生命の誕生の奇跡を考えることができました。そして私が生まれた時の話を改めて沢山聞いて、自分は幸せだと実感できました。私もいつか、目の前の一つの尊い命とちゃんと向き合える強いお母さんに、なりたいです。そして、ここまでしっかり支えて、大きく育ててくれた両親に、「ありがとう」と言いたいと思います。

『夜間中学へようこそ』を読んで

中２　梶谷　悠

「夜間中学って知っとる？」

母からこの本を紹介された時に言われた一言だった。夜間高校は聞いたことがあるが、夜間中学は聞いたことが無く全く知らなかった。そもそも夜間中学と言う位だから、中学生が通うものだと勝手に思っていた。でも、「中学」だけど「誰でも通っていい中学」が夜間中学なのだと知り、驚かされた。私にとっての学校

は「同い年の生徒が勉強する場所」というイメージがしっかり付いていた。だから、年齢も国籍も様々な人達が一緒に勉強するというのは、とても新鮮に感じられた。

夜間中学に来ている人達は、いろいろな理由があって来ているけれど、その中でも幸おばあちゃんの理由に、私は大切なことを気付かされた。幸おばあちゃんは主人公・優菜の祖母で、76歳で夜間中学に通い始める。最初は、私も優菜と同じように年を取って今さら学校に行くことに、疑問を感じていた。

しかし、幸おばあちゃんの思いを知ると、私は何も分かっていなかったことに気付いた。幸おばあちゃんは幼い頃、戦争の影響で学校に行かずに家族を支える為に働いたり、家族の世話をしたりしなくてはならなかった。時々学校に行っても滅多に来ないので席も無かった。もし私が同じ状況に立たされたらどんな気持ちだろうか。想像しようとしてもなかなか出来ないけれど、多分自分なら悔しさとつらさが入り混じった気持ちになると思う。

胸が痛くなったのは、幸おばあちゃんがご飯を炊いていた時の話だ。幸おばあちゃんは小さい時、忙しい母親に代わって家族の世話をしていた。学校に行くより家事をしているほうが好きだったのだそうだ。でも、ある日、一人でご飯を炊いていた時に薪がメラメラと燃えるのを見ていると、急に涙が止まらなくなってしまったのだ。きっと心のどこかではつらい気持ちを抱えていたのであろう。一人で静かに泣いている小さな女の子の姿を思い浮かべると、私まで涙がこみ上げてきた。

私なら、もう字が書けなくてもいいや、わざわざ学校にまで行かなくていいやと思ってあきらめるだろう。でも、字を覚えたいと思った時の幸おばあちゃんの「自分は、人がやらなきゃいけないことをやってきてないって気がしてさ。大きな忘れ物をしてるみたいなさ」という一言から、幸おばあちゃんは年をとっても学びたいという気持ちをしっかり持ち続けていたんだと思った。だから、幸おばあちゃんは怪我をしても、どうしても夜間中学はやめないときっぱり言ったのだ。

幸おばあちゃんの様に学びたくても学べなかった人達が、やっと学べるようになって一生懸命頑張っている。果たして、今の私達中学生もこんな風に有り難みを持って勉強しているだろうか。私を含む多くの中学生は、きっと勉強は当たり前だと思っていて、それができることが幸せだと思う人は少ないと思う。でも、この本を読んでからはこうやって学校で学べることは、こんなにも幸せなことなんだなと考えさせられた。

夜間中学に通う人達は幸おばあちゃんの様に昔勉強できなかった人を始め、学校になじめなかった人、同世代の子とは合わせられない人や外国の人まで、いろいろな事情を抱えている人達だ。そして、この本にはその人たちのたくさんの「勇気」が出てくる。年をとってから学校へ通う勇気、家の中から外へ出る勇気、中学時代をやり直す勇気。夜間中学に通う人達は、皆一歩踏み出す勇気を持って通っている。一人で夜間中学に来ることはとても勇気のいることだと思った。私はなかなか新しいことに挑戦するのが苦手だから、夜間中学へ通おうと決心した人達を見習いたい。

また夜間中学の人々には、国も年も違うけれど仲間としての絆が見えないところにあるんだなと感じた。高校生に絡まれた夜間中学のおじいさんを皆で守った

り、バレーボール大会のピンチに助け合ったりと、絆は肌の色が違っても、どんなに年が離れていても関係無く生まれるものだと思った。私もいつかそんな関係を作ることが出来たら、どんなに素晴らしいだろうか。

この本を読むまで多分知ることは無かった夜間中学のことを知って、この本の人達は事情を抱えながらも前向きに勉強していて、私よりずっと立派だと思った。私も、夜間中学の人達のように勉強を真面目に頑張ったらあとで後悔しないし、自分の力になっていくような気がする。それに、勉強したくてもできない子供達がいる中で、学校に行って授業に出て勉強できることは実はとても恵まれていることだった。だから、その機会を無駄にしないで大切に使いたい。将来私も自分の殻を打ち破って、新しいことに踏み出していける大人になりたい。そして、もっとたくさんの人達とつながっていきたい。

▼中学校の部　課題図書入選

『ＡＢＣ！曙第二中学校放送部』を読んで

中２　笠原　麻由

私は、この本を読んで、人と向き合うことの難しさを改めて感じました。なぜなら、自分が持っている心の傷や、過去の苦い経験などを人に打ち明け、自分をさらけ出すことは、簡単にはできないと思ったからです。しかしそうすることで、相手のことを理解し、信頼関係を築くことができるのだということを学びました。

この本は、廃部寸前の放送部に所属する主人公のみさとが、クラスメイトとの衝突や教師との確執などを乗り越えて、部員とともに、全国大会に挑戦する物語です。そして、転校生で、アナウンス経験者の葉月と部活動を通して、ぶつかったり、助け合ったりしながら互いに、成長していきます。

物語の中の、みさとと葉月の様子を見て、思ったことがあります。それは、最近、私自身がみさとたちのように、友達とぶつかったことがないということです。みさとと葉月は関わっていくうちに、ぶつかることが多くなります。でも、最終的には信頼しあえる友達になります。私も小学校の時は、友達と喧嘩をして先生に注意されるなどしました。でも、中学生になって友達に自分をさらけ出し、ぶつかり合うことが少なくなった気がします。なぜなら、仲の良かった友達と別れ、学園に小学校から1人入学した私は、なかなか親しい友人を作れず、本音ではなく、いい人に見られたくて建前で接していたからです。みさとたちがぶつかり合って、共に成長していく姿に、私も自分をさらけ出し、共に信頼しあえる友達がほしいと心から思いました。

でも、そんなみさとと葉月は、友達との関係が崩れてしまうという苦い過去をそれぞれ持っていました。それは、人と関わっているとき、自分しか見えていなかったことが理由です。人は、無意識に自分を優先的に考えてしまいがちです。でも、それでは独りよがりになってしまいます。だから、まず相手のことや立場を考えてから、行動することが大切なのだと思いました。

そんな二人と部員たちに須貝先生が全国大会に出ることを勧めます。この後の、みさとたち放送部がそれぞれの部門へ向けて協力しながら、頑張るシーンは、とても感動的で読んでいて心が躍りました。放送部の団結力が強まっていく姿を見て、仲間で何かをやりとげていくことの素晴らしさを感じました。

私は、学校で少林寺拳法部に所属しています。今年の夏には、大阪で開かれた全国大会に出場しました。部門は、団体演武でした。団体演武では、仲間と息を合わせて演武をしなければなりません。私は、欠員のための代理出場をすることになったのですが、正直言うとやりたくありませんでした。なぜなら、もとは私には関係のないことだったし、出場のためのハードな練習も面倒くさいと思ったからです。でも、大会前の合宿や練習に参加して、仲間と話す機会が増えるたびに、全員の団結力が強まっていきました。そして、自然とやる気がわいてきました。結果、大会では納得のいく演武ができ、達成感を味わうことができました。この経験を通して、私は、仲間と協力して頑張る大切さ、信頼し協力することの大切さを学びました。みさとたちの、このシーンは、私にとって一番共感できるシーンでした。

みさとは、全国大会でメタセコイアについてのアナウンスをします。みさとの通う曙第二中学校には、名前にちなんでメタセコイアが植えられています。そのメタセコイアは、春先の嵐にも負けずまっすぐに天を指し、成長を続けているそうです。私の学校にも、メタセコイアの木が植えられています。それは、天皇から頂いたものだそうです。私は、メタセコイアがあまり好きではありません。なぜなら、夏はセミの鳴き声がうるさいし、冬は葉が落ちて寒くみえるからです。でも、最後にみさとが言う、「みなさんも、そばを通ったら梢を見上げてみませんか。丸まっていた背中がぴんと伸びて、その向こうにはきっと、青い空が見えるはずです」という言葉を読んだ時、はっとしました。自分には、みさとのようなポジティブさがなかったと気づきました。だから、自分も物のとらえ方をポジティブにしていきたいです。考え方をポジティブにしていくことで、前向きな気持ちになれると感じたからです。前向きになると、心が軽くなりいろんなことに積極的に取り組んでいけます。だから、私は、何事にもポジティブに考えて、積極的に前に出ていきたいです。

これから、大人になるにつれて、様々な人と出会い、また、大きな壁にぶつかることもあると思います。そんなときは、この本に書いてあったように、背中を伸ばして前向きに考えていこうと思います。そして、積極的にいろいろなことに挑戦して、心から信頼しあえる仲間や友達を作りたいと思います。

入賞おめでとう

▼第80回岡山県児童生徒発明くふう展
岡山県知事賞（中学生の部）
中１　原田　珠希

▼第84回全国書画展覧会
広島県教育委員会賞
中１　赤沢　梨吏

▼第11回全日本小学生・中学生
書道紙上展入賞
中１　赤沢　梨吏

▼第14回永瀬清子賞
優秀賞　中２　三宅　茜
佳作　中３　平松　果奈
奨励賞　中１　田頭　咲和
中２　大野　未貴

探究授業報告

探究（中3）

○ディベート

3学期は論理的思考力、批判的思考力、さらに伝える力を身につける目的でディベート大会を行いました。各グループでワークシートを使って肯定側、否定側の論点を共有して事前調査し、簡単なテーマで練習し、グループ大会に臨みました。練習では「動物園の動物は幸せであるか」「日本は救急車の利用を有料化にすべきか」をテーマに取り上げ、クラス大会の1、2回戦では「トランプ大統領が掲げるアメリカ第一主義はアメリカにとって是か非か」、「天皇の譲位について是か非か」、決勝では「18歳以上の国民に選挙権を認めるべきか」をテーマに、トーナメント形式で実施しました。社会問題について考える良いきっかけになりました。

探究Ⅰ（高1）

○ゼミ活動

2学期から継続して文系4ゼミ（教育、日本語・日本文学、現代社会、ビヨンド・ザ・カルチャー）、理系5ゼミ（数学、物理、化学、生物、天文）に分かれて、文献検索、調査、実験、観察を進めています。ゼミでの個人・グループのテーマも決まり、2月の中間発表会では、大学などの先生方をお招きして、今までの研究成果をまとめたものを発表し、その後の研究の方向性について助言をいただきました。

探究Ⅱ（高2）

○ゼミ活動

これまでに取り組んできた研究のまとめとして、英文アブストラクトにも挑戦した研究論文を完成させ、論文集として発行することができました。また、2学期に引き続き、県内のコンテストにも出場し、研究の成果を発表すると同時に、プレゼンテーション力を養うことができました。3月11日に本校で実施した探究活動成果発表会では、文系ゼミは英語でのスライド発表と日本語によるスライド発表を行い、理系ゼミは英語によるポスター発表と日本語によるポスター発表を行いました。各分野の専門の先生方や海外からの留学生に助言者としてお越しいただきました。

受賞等

○各種コンクール、コンテスト等への参加

「高校生科学技術チャレンジ(JSEC2016)」に応募した「オガ炭を使った新しい電池の可能性！」（化学ゼミ：秋田歩夏さん、藤井佳歩さん、岡優真君）が全国30テーマに選抜され、12月10・11日に日本科学未来館で開催された最終審査に出場し、優等賞を受賞しました。12月23日の朝日新聞全国版にも紹介されました。

12月17日に中国学園大学で開催された「第3回高校生プレゼンテーション・コンテスト」に教育ゼミ、岡山再発見ゼミが参加し、「Laos Education for Preliterate」（教育ゼミ：植田七菜子さん）が佳作を受賞しました。

1月22日に岡山大学で開催された「集まれ！科学への挑戦者」に化学ゼミ、生物ゼミ、天文ゼミ、情報ゼミが参加し、「気孔の数～葉の成長過程における数の比較～」（生物ゼミ：大熊峻平君）が奨励賞を受賞しました。

2月4日に岡山大学で開催された「第17回岡山県理数科理数コース課題研究合同発表会」に数学ゼミ、化学ゼミ、情報ゼミが参加しました。

ある日のホームルーム

中学2年4組

今回は2月16日の「学年集会」に向けてのHRを紹介します。

中学2年の学年集会は、沖縄修学旅行での「戦争」がテーマ。このテーマにそって各クラスが取り組みました。4組は「沖縄の基地問題」をテーマに寸劇を行いました。

2月3日のHRで台本が出来上がり、翌日配布。キャストなどの係分担を決めて、6日より劇の練習が始まりました。ほぼ毎日放課後を使って練習をしました。

担任が主体となるのではなく、生徒が主体となって今回の劇を作り上げます。

教室の机を前に運び、教室の後側に舞台を作り、監督の生徒の指示で、通し練習が始まりました。

その監督が言うには、「キャストが個性豊かだったのでまとめるのが大変だった。本番直前には、まとまってきた印象であったが、逆に近づいてきている興奮で落ち着かなくなることも。衣装も着てみるということもあり、後半は熱くなった面も出てしまった」。キャストからは「厳しい監督のもと毎日練習が行われた」「本番まで一度も完璧に通ったことがなく心配だった」「時には口論をすることもあった」などの感想が聞かれた。

そして当日、マイクトラブルなどもあったが、無事終了。

「4組らしい劇ができた」「達成感が味わえた」などの言葉もあり、満足のいく結果になった。

普段のHRでも担任が一人ひとりがしっかりと考え、行動できるように配慮しながらHRを行っている。その一つの努力が実ったHR活動になった。

生徒会活動

《高校生徒会》

2月3日（金）、第2回生徒会総会が行われた。今年度の学年代表者会議、各種専門委員会、執行部の年間総括について審議され、すべて原案通りに承認された。運営は円滑に進み、舞台で発言した学年代表者会議議長、各種専門委員長、執行部らはいずれも堂々とした態度で発表を行い、質問や意見に対して誠実に答えた。

2月16日（木）、高校2年生が家庭科の授業で、浅口市高齢者支援課と認知症サポーターキャラバンによる認知症サポーター養成講座を受講した。

2月18日（土）、浅口市健康福祉センターで行われた認知症セミナーにおいて、高校2年生の中田美菜子さんが認知症サポーター養成講座を受講して学んだことを発表した。

《中学生徒会》

次年度の生徒会を担う生徒会長選挙が1月7日に公示され、中1・2の8クラスから12名（男子4名、女子8名）が立候補した。13日の立会演説会では、政策や公約と共に候補者の熱い思いが訴えられた。公約は、きれいな学校やあいさつ運動など学校を基本からよくしていこうというものが多くみられた。17日の公開質問会では多くの質問が出され、候補者の考えを更に理解できる良い機会となった。19日の投票の結果、会長に2年の笠原麻由さん、副会長に2年の唐木歩夢くん、1年の光畑藍未くんが当選した。認証式後、1月31日、2月1日に新事務局員募集のための説明会を行った。中1・2から約40名が参加をした。会終了後の第1次意思確認では、30人以上が『事務局員をやりたい』と名乗りを上げた。現事務局員と一緒に活動し、3月10日の春季球技大会や3月17日に行われる中学ゆずり葉のなどの準備、運営を行い、巣立つ3年から生徒会を引き継いだ。

《新聞部》

ほつま新聞の3月号発行に向けて、中学生部員を中心に様々な取材活動を行った。

《天文気象部》

12月26・27日に美星天文台で、スペクトルに関する研修合宿を行った。

12月、2月に中学棟屋上天文台で変光星アルゴルの観測を行った。

1月、岡山大学で行われた「集まれ！科学への挑戦者」に3名が参加した。

3月、九州大学で行われる天文学会Jrセッションに3名の生徒が参加し、口頭発表・ポスター発表を行った。

《生物部》

11月、倉敷科学センターで行われた青少年のための科学の祭典倉敷大会にブースを出展した。小中学生の参加者に、煮干しの解剖を体験してもらった。1回につき約20分間の詳しい解説付きの実験は多くの参加者に好評だった。11月、きびじアリーナで行われたサイエンスチャレンジ岡山２０１６に他の部の生徒と共に競技者として参加した。生物の知識を使うフィールドワークの分野などで活躍した。11月、金光学園校内で行われた金光学園サイエンスチャレンジにボランティアスタッフとして参加し、司会など運営の手助けを行った。

《科学部》

11月19日きびじアリーナにて行われた「サイエンスチャレンジ岡山２０１６」に高1・高2が出場した。筆記競技、成分分析、フィールドワーク、科学トライアスロンの4競技に出場し、成分分析で4位に入った。

11月23日金光学園にて行われた「金光学園サイエンスチャレンジ２０１６」にて、中2・中3がスタッフとして参加した。「水のろ過」競技を担当し、企画から運営まで行った。

3学期は中学生を中心に、様々な科学トリックを調べ、実験を行った。来年度の新入生へのプレゼントも作成した。

《電気科学部》

仁科博士顕彰ロボットコンテストが8月28日に里庄中学校で行われ、中学4チーム、高校1チームが出場した。全チーム予選敗退という結果であった。

中学生は、11月20日に岡山大学附属中学校で行われた、第17回創造アイデアロボットコンテストに、活用部門に2台、応用部門に2台出場。応用部門の1チーム「ボスボロット」が審査員特別賞を受賞した。岡山県としては7位ではあったが、中四国大会に出場することとなった。12月4日鳥取県米子市で行われた中四国大会に出場し、健闘したものの、予選リーグ敗退となった。

《中・高美術部》

中学美術部は6名の部員で、春のギャラリーの作品を制作した。テーマは「花」で透明水彩に挑戦した。また、高校美術部は岡山県高校美術展に1名が出品した。

《中・高書道部》

ほつま祭において展示会を実施した。第53回全国競書大会（創玄書道会）において大会委員長賞を高1坂口小枝、中1赤沢梨吏が、奨励賞を高1塚本瑠菜が、推選を高2冨田瑞貴、中塚心愛、長田麻依が、特選を中2永原みゆが、金賞を中2大野未貴が受賞した。また芸術の書道選択者と出品し、団体奨励賞を受賞した。熊本震災による仮設住宅への応援活動として「ＮＯＲＥＮプロジェクト」に参加した。留学生のナディア・ヒアさんと書道パフォーマンス（『ひまわりの約束』）を実施した。

《茶道部》

1月12日初釜を行った。また、毎週木曜日に岡本先生の指導の下、ひな茶会に向けて練習に励んだ。

《音楽部吹奏楽団》

11月20日（日）金光町音楽祭にて「カーペンターズフォーエバー」「CARNEGIE ANTHEM」「今日の日はさようなら」を演奏した。11月16日（水）創立記念式にて「金光学園歌」「神人の栄光」「You Raise Me Up」「Everything for dream」を演奏した。11月23日（水）吹奏楽祭にて「Into the crowd」「Everything for dream」「Harry Potter Symphonic Suite」「高吹連の歌」「高吹連賛歌」を演奏した。12月21日（水）イルカの家に訪問し、「ジングルベル」「サンタが街にやってくる」「G線上のアリア」「365日の紙飛行機」「新童謡オープニング」「きよしのズンドコ節」「青い山脈」「北国の春」「アメージング・グレイス」「空より高く」を演奏した。12月23日(金)寿光園に訪問し、「ジングルベル」「サンタが街にやってくる」「G線上のアリア」「365日の紙飛行機」「新童謡オープニング」「きよしのズンドコ節」「青い山脈」「北国の春」「アメージング・グレイス」「空より高く」を演奏した。1月28日（土）第60回高梁川流域高等学校音楽会ジョイフルコンサートにて「歓びの歌」「カーペンターズフォーエバー」「私のたからもの」を演奏した。

1月7日（土）第48回岡山県アンサンブルコンテストにて、フルート四重奏が金賞を受賞した。

《音楽部コーラス》

11月20日（日）第30回金光町音楽祭（金光公民館）。曲目は「Wake up !」「北海道メドレー」「結」。

12月21日（水）訪問演奏（倉敷市立穂井田認定こども園）。クリスマスソングを中心に歌い、生徒の企画した劇や手遊びなどで楽しい時間を過ごせた。また、演奏後は子供たちと自由に遊び、ふれ合うこともできた。

1月22日（日）留学生ナディアとのお別れ会（中学音楽室）。4月から金光学園にインドネシアから留学してきていたナディアが1月末に岡山を離れるのを前に、コーラスでお別れ会を催した。様々なゲームをしたり一緒に歌ったりして、思い出に残る時間を過ごせた。

1月28日（土）第60回高梁川流域高等学校音楽会ジョイフルコンサート（高梁総合文化会館）。曲目は「恋」「前へ」と合同曲で「歓びの歌」「わたしの宝物」。ナディアとの最後のステージに心を込めて歌い、踊ることができた。

2月12日（日）第24回ヴォーカルアンサンブルコンテスト（倉敷市芸文館）。ジュニアの部に中学生が3団体、高校の部に高校生が3団体、それぞれ参加した。以下曲目と結果。【ジュニアの部】女声「あんたがたどこさ」金賞、混声「てぃんさぐぬ花」「ずいずいずっころばし」銀賞、女声「涙」「あわ雪」金賞《全国大会推薦》。【高校の部】女声「SALVE REGINA」銀賞、男声「花火」銅賞、混声「ヒスイ」金賞。全国大会に推薦された中学生16名が3月17日に福島県福島市で開催される第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会に出場した。

《中放送部》

2月14日（火）にＯＨＫ「なんしょん」の部活動取材に同行し、キャスターや番組企画を行った。

《高放送部》

1月28日～29日にかけて、高1岡本圭織が第2回中国地区高校放送コンテストならびに校内放送活動研究集会広島大会に参加した。朗読部門で参加。他校の生徒と交流することが出来た。2月18日に市民会館金光で開催された高2音楽選択者の発表会に高1、2の部員が協力した。

《囲碁将棋部》

2月3日～5日、東京で開催された第25回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に高2の原田理司が出場。1勝3敗で予選リーグで敗退した。全国大会のレベルの高さを感じたが、初勝利をあげて、今後につながる貴重な体験となった。

《文芸部》

12月に「雪のひとひら」、1月に「たとえ短くても」と題した月例集を制作し、批評会を行うことで互いに研鑽に励んだ。また、卒業式に際しては記念集を制作し、5人の卒業生に贈った。

《軽音楽部》

週1回各バンドで練習に励んだ。部室で発表会を行った。それぞれのバンドが目標をもって努力した。

《中・高陸上競技部》

3月からスタートする試合に向けてトレーニングに打ち込んでいます。部活動の最後には「One Team. One Vision」を目指して毎日1名がスピーチをした。

《ラグビー部》

12月17日（土）から美作市長杯ラグビーフットボール大会に高松農業・鴨方との合同チームで参加。予選リーグでは津山工業に0―53、関西に5―50で敗れた。翌日の決勝リーグでは鳥取合同に0―38、合同A（岡山城東・岡山朝日）に17―19で敗れた。平成29年1月3日には正三会を実施。多くの卒業生と交流試合を行った。1月21日（土）からスタートした新人戦にも同様の合同チームで参加。1回戦は合同A(岡山城東・岡山朝日)に27―36で敗れた。続く3位決定トーナメント1回戦では合同B（岡山一宮・津山工専）に7―49で敗れた。U-17岡山県選抜選手に高1甲斐准輝・杉原秀明が選ばれた。

《中男子ソフトテニス部》

11月19日に井原運動公園テニスコートで行われたチャレンジカップでは、Ⅱ部で中1西原・中村ペア、飯山・小林玄ペアが3位であった。12月23日にびんご運動公園テニスコートで行われた中四国選抜ソフトテニス大会では、Aチームが3位入賞を果たした。メンバーは高村・田中・岡田・石丸・畑地・小田原の6名。

《高男子ソフトテニス部》

6月25日（土）に国民体育大会の岡山県予選が浦安総合公園でおこなわれ、黒川・石原組が出場したが、初戦で敗退した。

7月22日（金）からは第59回中国高等学校ソフトテニス選手権大会が山口県宇部市の宇部マテ〝プレッセラ〟テニスコートで開催された。岡山県大会でベスト16となった黒川・石原組が本校としては20年ぶりに出場したが、初戦で山口県徳山高校のペアを相手に敗退した。

夏季休暇中は8月8日（月）9日（火）に備前テニスセンターで開催された岡山県ソフトテニス交流大会に参加して県内の高校と団体戦をおこない、3年生が引退したあとの新チームの強化を図った。

8月20日（土）21日（日）、水島緑地福田公園テニスコートで高梁川流域高等学校ソフトテニス大会がおこなわれた。個人戦では石原・福井組が3回戦まで進んだのが最高戦績で、他のペアは2回戦までで敗退した。団体戦は1回戦で倉敷古城池Bに2対1で勝利したが、2回戦で笠岡Aに0対3で敗れた。

9月24日（土）は岡山県新人ソフトテニス選手権大会（ダブルス）の備西地区予選会が笠岡総合スポーツ公園テニスコートでおこなわれた。4ペアが出場したがすべて2回戦までで敗退し、個人戦での県大会出場を逃すこととなった。11月12日（土）には県大会（団体戦）が水島緑地福田公園でおこなわれたが、1回戦で玉野高校に1対2で敗れた。なおこの開会式で平成28年度のランキング表彰がおこなわれ、黒川・石原組が岡山県高校生で第8位にランキングされ、表彰を受けた。

2月4日（土）には岡山県技術等級ソフトテニス大会がおこなわれた。備前テニスセンターでおこなわれた初級の部に3ペアが出場したうち、石原・板坂組が予選リーグを突破して決勝トーナメントに進出したが、1回戦で敗退した。

《高女子ソフトテニス部》

12月、塚岡・向組が第46回岡山県高等学校インドア選手権大会に出場した。

2月、岡山県ソフトテニス技術等級大会（団体）に出場した。

《中卓球部》

12月17日に山陽新聞社杯に参加した。男子個人で中2山本がベスト32に入った。

12月25日に鳴門市オープン強化大会に参加した。男子団体でAチームがベスト16に入った。

12月26日に全国中学選抜岡山県予選会に参加した。男子団体予選リーグで福浜に3―0、操山に0―3、玉島東に3―1、倉敷福田に0―3の2勝2敗で予選敗退であった。

1月8日にニッタク杯争奪笠岡市卓球大会に参加した。男子団体でAチームがベスト4、Bチームがベスト8に入った。

1月22日に岡山県中学加盟団体に参加した。男子団体予選リーグで玉島北に3―0、灘崎に3―0、総社に2―3、山南に0―3の2勝2敗で予選2位で決勝トーナメントに進み、1回戦で玉島西に2―3で敗れてベスト16であった。

《高卓球部》

11月13日に総社市長杯に参加した。一般男子シングルスで高2唐川と高1古賀、高1升本が予選を通過し、決勝トーナメントに進出した。

11月23日に岡山県高校新人大会に出場した。男子シングルスでは升本がベスト32に入った。女子シングルスでは高2藤澤がベスト32、高2内山と高2中務と高2東がベスト64に入った。

12月23、24日に岡山県高校新人大会に出場した。男子団体では1回戦で玉島商業に3―1、2回戦で新見に3―0で勝ち、3回戦で玉野光南に1―3で敗れ、ベスト16であった。女子団体では2回戦で総社に3―0、3回戦で勝山に3―0で勝ち、準々決勝で興陽に0―3で敗れ、順位決定リーグで美作に2―3、笠岡に3―1、岡山芳泉に3―1の2勝1敗で5位になり、中国大会出場を決めた。男子ダブルスでは唐川・升本組がベスト16、高2石井・古賀組がベスト32に入った。女子ダブルスでは内山・藤澤組と中務・東組がベスト16に入った。

1月8日にニッタク杯争奪笠岡市卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグを全勝し、決勝トーナメント準々決勝で倉敷工業Aに0―3で敗れ、ベスト8だった。女子団体では予選リーグを全勝し、決勝トーナメント準決勝で倉敷天城に3―1、決勝で倉敷青陵に2―0で勝ち、2年連続の優勝を果たした。

1月14日に全国高校選抜シングルス（2部）岡山県予選会に出場した。男子シングルスでは唐川がベスト64に入った。女子シングルスでは藤澤がベスト8、内山がベスト16、中務がベスト32、高2西原がベスト64に入った。

1月15日に井原後期個人戦に参加した。一般男子シングルスでは唐川と升本がベスト8に入った。一般女子シングルスでは内山が準優勝し、藤澤がベスト4、中務がベスト8に入った。

2月3～5日に全国高校選抜中国地区予選に女子が出場した。予選リーグで岩国商業に0―3で敗れ、鳥取西に3―0で勝ち、ベスト16に入った。

2月19日に山陽新聞社杯争奪卓球選手権大会（一般の部）に参加した。女子シングルスの予選リーグで中務が1位通過し、決勝トーナメント準々決勝で敗退したが、ベスト6に入った。

《中野球部》

7月9日、10日にどんぐり球場などで行われた備南西地区夏季総体は、2回戦美星中学校に11―0で勝利し、代表決定戦では小北中学校に10―0で勝利し、4年連続9度目の県大会出場を決めた。7月24日、25日に総社球場と倉敷市営球場で行われた県総体は、1回戦上南中学校に2―0で勝利したが、2回戦玉島北中

学校に延長の末2―4で敗れ、3年連続ベスト16となった。7月29日に総社球場で行われた総社市長杯では、1回戦で総社東中学校に3―8で敗れた。

新チームとなって、9月17日に井原球場などで行われたシード決めでは、2回戦金浦中学校10―0で勝利し4シードを獲得した。10月16日に井原球場などで行われた備南西地区秋季大会では、2回戦美星・芳井中学校に3―1で勝利し、代表決定戦では金光中学校に6―2で勝利し、5年連続の県大会出場を決めた。11月6日にかよう球場などで行われた岡山県秋季大会では、1回戦妹尾中学校に9―3で勝利したが、2回戦勝山中学校に0―5で敗れ、ベスト8となった。

また、11月19、20日に玉島の森で行われた第17回玉浅良寛杯中学校野球大会では、2回戦1―0で玉島東中学校に投手の高橋駿生くんがノーヒットノーランで勝利し、準決勝は8―0で鴨方中学校に投手の加賀陸馬が5回参考ではあるが、ノーヒットノーランで勝利した。決勝では、2―8で里庄中学校に敗れ、準優勝に終わった。大会を通じて、高橋駿生くんが敢闘賞を受賞した。

《高野球部》

1月5日には、新年の練習はじめとして、毎年恒例である本部参拝を行った。

冬の厳しい強化期間には、合宿など、体作りに本気で取り組み、たくましい体に仕上がった。3月3日に春季県大会西部地区予選の抽選会があり、対戦校が決定した。

《中サッカー》

10月15日、地区大会が笠岡陸上競技場で行われた。1回戦笠岡東中学校に4対1で勝利。準決勝で寄島中学校に0対0の引き分けで、PK戦となった。結果は4対5で負けた。11月20日、金光ライオンズ杯が寄島三ツ山公園で行われた。倉敷北中学校に1対2で負けた。鴨方中学校には2対1で勝利した。12月23日、西備地区ユース大会が金浦中学校で行われた。金浦中学校に5対2で勝利、総社Unitedに0対4で負け、真備中学校に9対0で勝利し、2位となった。12月26日・27日に百間川サッカー大会が行われた。御津中学校に0対0で引き分け、高松中学校に0対2で負け、鶴山中学校に3対0で勝利、高島中学校に4対1で勝利、福浜中学校に0対4で負け、荘内中学校で0対1で負けた。

《高サッカー》

11月12日、練習試合を行った。対倉敷南A（60分）（1―1）、対玉島商業（20分）（2―0）、対倉敷南B（20分）（3―2）。高円宮杯U―18サッカーリーグ2016OKAYAMAチャレンジリーグ（後期の続き）は以下のような結果となっている。11月13日、対大安寺（2―0）。11月20日、対津山商業（4―0）。11月23日、対美作（8―0）。今回のリーグ戦は、無失点で全勝した。12月12日、練習試合を行った。対おかやま山陽（25分×2）（0―1・0―5）、対玉島商業（25分）（0―0）、対出雲北陵（25分×2）（2―0）。岡山県高校サッカー新人大会備中地区予選会1次リーグが12月17日・18日・23日に行われた。対倉敷（0―1）、対笠岡（1―0）、対矢掛（7―0）。2勝1敗で代表決定戦へ進出し、対鷲羽（1―1・PK4―2）。長年、あと一歩のところで獲得できていなかった新人戦県大会への出場権を得た。1月2日には毎年恒例のOB戦を行った。過去最多となったかもしれない約70名の参加があった。学園ならではの兄弟対決や、親子共演もあり、

大いに初蹴りを楽しむことができた。岡山県高校サッカー新人大会1回戦が1月29日に行われた。岡山工業と対戦し、延長戦の末、（0―1）で敗れた。

《中柔道部》

12月11日に行われた、第16回倉敷武道館柔道大会に出場し、男女ともに予選リーグで敗退した。

12月23日に玉野スポーツセンターで行われた、中学強化合宿に参加した。県内の強化選手や近県の選手たちと練習を行うことができた。

《高柔道部》

1月21日、22日に岡山武道館で行われた、第39回全国高等学校柔道選手権大会に出場した。男子団体戦は1回戦でおかやま山陽高校に敗退した。男子個人戦では60kg級で高2戸田勝己が第3位となった。

12月26日から28日に玉野スポーツセンターで行われた、高校強化合宿に参加した。中四国地方のみならず、関西や九州地方からも選手が集まる中、試合形式の有意義な練習を行うことができた。

《中・高柔道部》

1月5日に本部参拝と初稽古を行った。多くのOBの方々も練習に参加していただいた。また保護者の方々もお越しいただき、練習を見ていただきました。ありがとうございました。

《中剣道部》

〈第35回笠岡剣道大会〉11月20日（日）笠岡総合体育館で開催され、2回戦玉島剣道少年団Aに4人残しで負ける。尚、伝統ある本大会も諸般の事情により今大会で幕を閉じました。

《高剣道部》

〈玉島剣道大会〉11月27日（日）玉島の森玉島体育館で開催され、古城池高校に負ける。

〈選抜予選会〉平成29年1月21日（土）岡山市文化総合体育館で開催され、1回戦勝間田高校に負ける。

《中・高剣道部》

〈稽古始め・OB・OG会〉平成29年1月2日（月）道場にて開催し、諸先輩方と汗を流し、交流を深めた。

〈寒稽古〉1月2日（月）～7日（土）まで、恒例の寒稽古を「厳寒に鍛える」をモットーに実施した。皆勤者は亀山、三谷（以上中学2年）、日名（4年連続）、石原（以上高校1年）の4名であった。7日午後、納会にて皆勤賞授与、ぜんざい会等で健闘をたたえあった。

《中男子バスケットボール部》

10月15、16日に行われた地区大会では、第2シードから出場し、決勝戦で鴨方中学校に勝利して、11月6日、7日に行われる県大会会に出場した。県大会では、1回戦で桜が丘中学校と対戦し、敗れた。11月23日に行われた岡山県バスケットボール交歓大会に出場し、1回戦で新田中学校と対戦し、接戦になったが、あと一歩及ばず1回戦で敗れた。

12月18日に行われたALL OKAYAMA WINTER CUP 1次リーグに出場し、地区の枠を超えたチームと対戦した。5チームリーグで行い、全勝して1月に行われる2次リーグへの出場を決めた。2次リーグでは、邑久中学校に勝利するも、東陽中・児島中・鶴山中に敗れ、3次リーグへの出場は出来なかった。

1月8日、9日に「玉島・浅口・笠岡地区バスケットボール大会」が行われた。1日目は全勝で、2日目の1位トーナメントへ進出した。2日目は、1回戦で笠岡東中に勝利し、決勝戦では、玉島東中に敗れ、準優勝となった。

12月23日、24日に大阪府八尾市で行われた「八尾カップ」へ出場した。府内外から男子16チームが出場し、1日目は1勝2敗で2日目の3位トーナメントに進んだ。2日目は、南高安中と八尾中に敗れた。今大会を通じて、県外の多くのチームと対戦することができた。

2月11日に行われた備西地区1年生大会では、予選リーグを2勝で勝ち上がり、決勝トーナメントでは、1回戦で真備中学校に勝利し、決勝戦では鴨方中学校を破り、優勝することができた。

また、1年3組の富田直斗くんが、岡山県中1選抜の一員として、さまざまな活動に参加した。

《中女子バスケットボール部》

12月18日に児島中学校で行われたALL OKAYAMA WINTER CUP 1次リーグに出場し、地区の枠を超えたチームと対戦した。6チームリーグで行い、児島中12―15金光学園、岡北中15―27金光学園、操山中10―19金光学園と勝利したが、リーグ決勝で早島中と対戦し早島中34―11金光学園と敗戦し2次リーグにはすすむことができなかった。

1月8日、9日に「玉島・浅口・笠岡地区バスケットボール大会」が行われた。1日目は5チームリーグでリーグ1位となり、2日目の決勝トーナメントへ進出することができた。2日目の準決勝では、玉島北中と対戦し敗戦。結果、3位となった。

2月11日に行われた備西バスケットボール1年生交歓大会では、リーグ戦では、玉島東中15―17金光学園、鴨方中10―11金光学園で勝利し、決勝リーグへ。決勝リーグでは、笠岡東中、玉島北中と対戦し敗戦。結果3位となった。

《高男子バスケットボール部》

11月19日から行われた、平成28年度第69回バスケットボール新人優勝大会備中地区予選会に参加した。1回戦、高梁高校に48―45で勝ったが、2回戦、倉敷南高校に57―78で敗れ、9位決定トーナメントに進んだ。その1回戦、倉敷鷲羽高校と対戦したが、38―49で敗れ、県大会出場はならなかった。

12月17日に行われた、玉島・浅口・笠岡地区バスケットボール大会に参加した。予選リーグ、笠岡高校に34―14、玉島高校に32―21で勝ち、リーグ1位で決勝リーグに進んだ。決勝リーグでは、玉島商業高校に37―28、岡山龍谷高校に74―14で勝ち、久しぶりの優勝となった。

2月12日に行われた、第5回私学交流バスケットボール大会に参加した。予選リーグ、倉敷翠松高校に39―2、近大附属福山高校に48―26で勝ち、リーグ1位で決勝リーグに進んだ。決勝リーグでは明誠学院高校に31―27で勝ったものの、岡山龍谷高校に26―29で惜敗し、得失点差で準優勝となった。

《中男子バレーボール部》

12月27・28日に大阪で行われたJOC全国都道府県対抗バレーボール大会に中3市川翔太、川口大城が岡山県選抜選手として出場し、全国3位だった。2月4・5日山口県岩国市総合体育館で行われた第13回中国中学バレーボール新人大会に出場し、決勝トーナメントで、優勝した井口中学校に敗れベスト8だった。

《中女子バレーボール部》

2月4日に春の中学校バレーボール大会備南西地区予選会が行われ、代表決定戦で芳井中に2―0で勝利し、3月18、19日に笠岡総合体育館で行われる県大会の出場を決めた。

《中・高少林寺拳法部》

2月5日（日）、岡山県高体連少林寺拳法専門部主催の中学・高校合同練習会に参加した。

《スキー》

現在、高2‐6組の西川華1名が活動している。

1月10日～12日に、鳥取県のわかさ氷ノ山スキー場で行われた第55回岡山県高等学校総合体育大会に出場し、女子ジャイアントスラロームで4人中2位に、スラロームで4人中2位になった。

1月23日～25日に、広島県の芸北国際スキー場で行われた第58回中国高等学校スキー選手権大会に出場し、女子ジャイアントスラロームで16人中8位に、スラロームで14人中9位になった。

1月29日～2月7日に、群馬県のスノーパーク尾瀬戸倉で行われた第66回全国高等学校スキー大会に出場し、女子ジャイアントスラロームで170人中90位に、スラロームで165人中83位になった。

《木綿崎ボランティア部》

ほつま祭において東日本大震災の復興支援を目的に小物販売を行った。売上金37、404円を東日本大震災に伴う震災孤児・遺児支援の寄付金として募金し宮城県知事より御礼状をもらった。11月福山のイトーヨーカ堂において行われた「絆…inふくやま」に参加した。熊本震災復興支援の募金活動や司会補助を行った。12月には玉島青年会議所主催の玉島イルミネーションパークに出品した。美術原田康史先生の協力の下、玉島の円通寺公園に高瀬舟を展示した。2月に宗教教室にて寒心行を行った。お話を金光道晴校長先生、堤光治先生、北川弘樹先生、志手彩先生、鶴井咲椰先生、小松原悠希先生、小郷彰人先生、高司和道先生、高2岡本樹生、友末泰嗣が日替わりで行った。連日20名ほどが参加、最終日の校長先生のお話には、中学・高校野球部、木綿崎ボランティア部、有志の生徒など総勢100名ほどが参加した。

《歴史研究同好会》

2月5日（日）、神辺にある前方後円墳の調査に参加した。

《花道同好会》

毎週水曜日に宗教教室で兼信先生の指導の下、稽古をした。

《英語部》

部員は現在、高校1年生女子1名。週に1日30分間の個人レッスンで、英語の自然な音声やイントネーション、強勢やリズムを習得できるようにトレーニングした。

《ダンス部》

部員は現在、女子生徒35名（中学生22名・高校生13名）。来年度の新入生歓迎会やほつま祭でのステージに向けて、練習を重ねた。

学園だより

進路委員会　12月2～3日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、受験を控えてより良い指導ができるよう話し合った。5日に高1で、6日に高2でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

個別面談　12月中旬から下旬にかけて、中高全クラスで、個別に2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1・2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。

終業式　12月22日、2学期終業式が中高合同で行われた。

中学入学試験　1月4日、281名が志願していた中学入試が行われた。7日に合格発表が行われた。2月12日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

始業式　1月7日、3学期始業式が中高合同で行われた。校長式辞・高3生徒（福田智章君）の決意表明・生活課よりの諸注意があった。また、インドネシアからの留学生ナディア・ヒアさんが1年の留学を終了し、お別れの言葉を述べた。

街頭交通指導　1月7日から3月10日まで教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

高校県外入学試験　1月9日、37名が志願していた高校県外入試が行われた。合格者には12日に合格通知が発送された。

センター試験　1月14・15日に実施された大学入試センター試験には、高3生徒165名が出願し、川崎医療福祉大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学の各大学で受験した。

イギリス短期語学研修　第4回イギリス語学研修に向けて昨年12月から3月11日にかけて14回、校内で事前指導を行った。

オーストラリア第1回姉妹校交流プログラム　オーストラリア　ラッドフォード・カレッジとの第1回の交流に向けて昨年12月よりイギリス語学研修と同様に事前指導を行った。

中学生徒会長選挙　1月19日に行われた来年度の中学会長選挙の結果、会長には2年の笠原麻由さんが、副会長には2年の唐木歩夢（あゆむ）君と1年の光畑藍未（あい）君が選ばれた。

進路委員会　1月21日、高3ではセンター試験の自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

進路学習　1月23日、中1は高3の進路確定者から学習活動や部活動など学園生活の送り方に関わる話を聞き、それに対する質疑応答を行った。1月24日、中2は14分野にわたる様々な職業の方からグループ毎にお話を聞き、働くことの意義・楽しさ・苦労などを学び、これからの進路を考えることに役立てた。2月6日、中3は高校入学後の心構えや教科選択の説明を聴き、それを基に進路を考える機会を持った。

AFS留学生　1月末でナディアさんが1年の留学期間を終了した。1月27日にはHRの時間にお別れ会を開催した。学校の送別会も1月24日に行われ2月4日に帰国の途に就いた。

学校保健委員会　1月27日、校医、やつなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。浅口市企画財政部の前川満重氏に「災害時における地域との連携について」講演をしていただいた。

高校入学試験　2月2日に推薦入試（専願）と一般入試（専願・併願）が同時に行われ、それぞれに3名、68名の中学生が志願した。推薦と一般入試は2月7日に、それぞれの保護者宛に選考の結果が通知され、専願合格者は10日までに手続きを終え、12日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。そして進度調整のためのスクーリングを、それ以後の日曜日と春休みに合わせて9日間行った。併願合格者は、3月17日の招集日に手続きを完了し、それ以後に9日間のスクーリングを行った。

美術館見学　2月8日、中3は美術の授業の一環として、事前学習の後に倉敷美観地区の大原美術館・民芸館・自然史博物館などへ行き、古今東西の有名な美術品を鑑賞した。

朝の寒心行実施　2月13日から18日にかけて、木綿崎ボランティア部を中心に寒心行を行った。話をされた先生方（高司和道先生、志手彩先生、北川弘樹先生、堤光治先生、鶴井咲椰先生、小松原悠希先生、小郷彰人先生、金光道晴校長）

探究Ⅰ課題研究中間発表会　高1探究クラスの生徒が2月13日（教育、日本語・日本文学、現代社会、ビヨンド・ザ・カルチャー）と20日（数学・物理・天文・生物・化学）、各ゼミに分かれて、これまで取り組んできた途中経過の報告を行った。

合唱コンクール　中1では例年、合唱コンクールを開催しているが、インフルエンザの影響もあり、今年は見送ることになった。

学年集会　2月16日、中2が浅口市民会館金光で修学旅行事前学習発表を行い、学年の団結を誓い今年度の総括の場とした。

高2芸術選択者発表会　2月18日、音楽選択者は練習の成果を浅口市民会館金光での演奏会で発表した。18日から23日まで、美術・書道・工芸の選択者はそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

卒業式　2月28日、第69回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、213名の生徒が学園を巣立った。

◇教主金光様のおことば

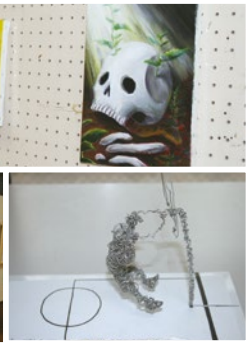
本日は、おめでとうございます。ただ今、代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になるすべてに礼をいう心をもって進んでいかれますよう、祈ってやみません。

教育相談保護者会　3月4日、5名の保護者が参加し、安原こずえ先生を講師に交流会が行われた。

防災訓練　3月13日、「3・11東日本大震災を忘れない」ために、昨年に続き防災訓練を実施した。地震を想定しての防災で、中学・高校別々に避難した。全体集合の後、黙祷を捧げ、校長講話があった。

お悔やみ　旧職員の坪井貞夫先生には1月7日に、高校3年吉原龍彦くんの御母堂には1月9日に、角田健先生の御岳父には2月12日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

高2　芸術選択者発表会



教室の窓から

「なんで文系なのに数学とか勉強せんといけんのですか？」

「なんで理系やのに古文とか漢文をやらんといけんの？」

こういった声は高校生になり多くの生徒が持つ疑問だろう。大学受験になればなおさら必要科目のみ勉強すればよいと考え始める生徒がいる。

これらの考え方はすばらしい。こういった考えはぜひ一度は持ってもらいたいと考えている。それは勉強をやらされる感覚から「なぜ」という観点にたって一度立ち止まって考えようとしているからだ。

先日、ツイッターである方のつぶやきを見た。小学生のときに勉強への疑問を持ち、お母さんに質問したときのことだ。

勉強をなぜするのか親に訊いたときに、コップを指して

「国語なら『透明なコップに入った濁ったお茶』、算数なら『200mlのコップに半分以下残っているお茶』、社会なら『中国産のコップに入った静岡産のお茶』と色々な視点が持てる。多様な視点や価値観は心を自由にする」というようなことを返され凝り固まった考え方は悪なのではなく損だ、というふうに教えてくれたのは助かりました。だから自由にやればいいんだ、ぶつかったらごめんなさいすればいいんだ。

「勉強をなぜするのか」という問いに、どう返すかなんて答えは決まっていない。このお母さんの小学生にもわかりやすく説明できる点や新しい視点を持つためという観点に共感できる。

人間はやっていることへの意味を見つけると、やりがいを感じて持続できる。だからその意義を探してしまうのだろう。しかし、その意義が見つかりにくい場合、いまやっていることが果たして意味のないことかどうかは、じつは後になってみないとわからないこともある。意義を徹底して感じられるまで勉強するのか、見つからないからすぐに投げ出してしまうのか。先述したお母さんの勉強する意味の説明が心地よい。

勉強してみて多様な観点を身につけ、心を自由にする。たとえば、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹がいる。幼少の頃より祖父の影響で漢文に親しみ、中国の儒教や孫子、老荘思想に触れた。それが、理系分野に進み、研究者として成長したあるとき、中学生のときにはまった荘子の渾沌を思い出した。その考え方が素粒子理論と重なった。湯川はそのときの感想を次のように綴っている。

「二千三百年前の荘子が、私などがいま考えていることと、ある意味で非常ににたことを考えていたということは、しかし、面白いことであり、驚くべきことでもある」

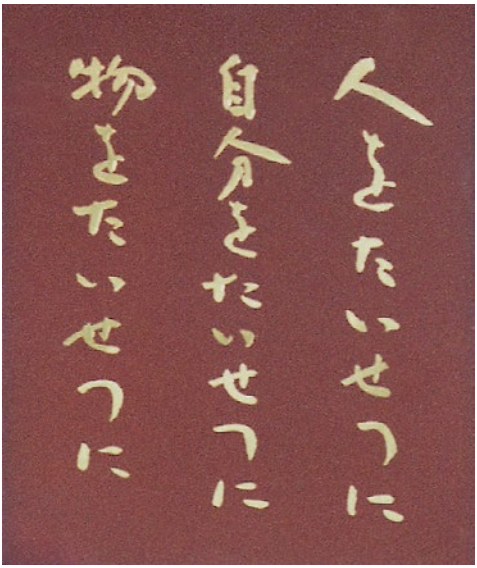
勉強するとは自由な発想を持つこと。ひとつの物事を今まで培ってきた多くの学びからどうとらえるか、また友人など多くの考え方に触れることで新しい知を迎え入れることはすばらしいことだ。すぐには勉強することの意義が見つからない場合でも、求め続けることに知の融合を迎える瞬間があるようだ。未知にわくわくできる心。子どもも大人もいつまでも失ってはいけない気がしている。

編集後記

やつなみ247号が完成しました。今号は、3月号ということもあり、「卒業」がメインテーマとなりますが、各方面から様々な声が寄せられました。待ちわびた春の到来を感じさせてくれる福武さんの表紙絵。卒業生代表江原徹さんの答辞では雨の中での「今」を実感した体育会。3年ないし6年間の学園生活の中で、必然ともいえる巡り会わせを通して成長した若者のあしあとを感じることができます。また、インドネシアからの留学生はわずか1年間でしたが、金光学園に大きなあしあとを残してくれました。彼女の学びの姿勢には、生徒の皆さんが英語に取り組む際の大きなヒントが隠されているように思います。さらに、全国中学校スケート大会で優勝した木科雄登さん。中学卒業前に「活躍おめでとう」に掲載させていただきました。是非ご一読を。

最後になりましたが、多くの方々に支えられて、今号を無事発行でき大変嬉しく思います。皆様ありがとうございました。

平成29年3月7日印刷
3月13日発行
編集者　金光学園やつなみ保護者会　やつなみ編集部
印刷所　倉敷市船穂町船穂二〇九五―一一　玉島活版所
発行所　浅口市金光町占見新田一三五〇　金光学園内　金光学園やつなみ保護者会



◎ほつま ＝ 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。
「日本という国」の古異名の一つ。
創立後、生徒会や冊子の名に使用。
ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ ＝ 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。
金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。
ＰＴＡ機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに　自分をたいせつに　物をたいせつに

http://www.konkougakuen.net
E-mail　info@konkougakuen.net